

報第 3 8 号

令和 6 （ 2 0 2 4 ） 年度
柏崎市教育委員会
点検・評価報告書

令和 7 年 （ 2 0 2 5 年 ） 9 月 1 2 日提出
柏崎市教育委員会
教育長 近藤 喜祐

目 次

はじめに	P 1
総評(教育委員会事務評価委員会)	P 2 ～ 5
第1 教育委員会の会議及び委員の主な活動	P 6 ・ 7
第2 教育委員会の事務の管理及び執行状況	P 8
1 子どもや若者の「たくましさ」をはぐくむ	P 8 ・ 9
(1) 知徳体のバランスの取れた教育を進める	P 9 ～ 12
ア 基礎学力をしっかりと身に付ける教育の推進	
イ 他者を思いやり、豊かな人間性をはぐくむ教育の推進	
ウ 体力を高め、健やかな体をはぐくむ教育の推進	
(2) 地域の人・もの・資源を活かして若者を育てる	P 13 ～ 15
ア ふるさと柏崎をこよなく愛し、発展させる人材の育成	
イ 教育における学校・家庭・地域の連携	
ウ 子どもの健全育成支援の推進	
(3) 教育環境を充実させる	P 16 ～ 19
ア 良好な教育環境の整備	
イ 教育現場の I C T 環境の充実	
2 学びを通じて地域の「たくましさ」をはぐくむ	P 20
(1) 学びの機会を充実させる	P 21 ～ 25
ア 多様な学習・交流機会の提供	
イ 社会教育環境の充実	
(2) 家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する	P 25
ア 地域づくりへの学習成果の活用	
イ 様々な主体との連携による生涯学習の充実	
3 スポーツを通じた「たくましさ」をはぐくむ	P 26
(1) スポーツによる地域づくりや生きがいを進める	P 27 ・ 28
ア ライフステージに応じたスポーツの推進	
イ スポーツによる交流人口の拡大	
(2) 全国や世界に通用する競技者を育てる	P 29 ～ 31
ア 競技団体との連携の強化と指導者の養成	
イ 競技力の向上に向けた取組の推進	
ウ 施設の整備と改修	
4 歴史や文化の息づく「柏崎らしさ」をつくる	P 32
(1) 歴史・文化を保全・活用し、継承する	P 33 ・ 34
ア 伝統芸能の継承	
イ 歴史・文化資産の保存と活用	
ウ 産業文化や生活文化の保存と活用	
エ 景観まちづくりの推進	
(2) 市民の主体的な文化活動を支援する	P 35
ア 市民の文化活動への支援	
イ 多様な文化交流の推進	
5 その他教育関係事務事業	P 36
用語解説	P 36
参考	P 37

はじめに

1 点検及び評価の背景

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとなっています。また、その点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

柏崎市教育委員会は、法の趣旨にのっとり、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施しました。

2 点検及び評価の対象

評価対象の事務事業は、第五次総合計画（後期基本計画）の施策体系を基本に、柏崎市教育大綱を踏まえ、令和6（2024）年度に執行した事務事業のうち82事業を対象として点検及び評価を行いました。また、やむを得ず事業を次年度に繰り越したことにより、評価をすることができないものについては、評価不能としました。

<内部評価ランク>

- [S] 期待を超える成果があった。
- [A] 期待どおりの成果があった。
- [B] 期待に比べ成果が少なかった。
- [-] やむを得ず事業を次年度に繰り越したことにより、評価することができなかった。

3 学識経験者の知見の活用

点検及び評価に当たっては、その客観性を確保するため、教育委員会が行った内部評価に対して、教育に関し学識経験を有する者で組織する教育委員会事務評価委員会に諮問し、御意見をいただきました。

総 評

令和6（2024）年度に柏崎市教育委員会が執行した事務の内部評価及び状況について点検及び評価を行った。評価については、柏崎市第五次総合計画後期基本計画と柏崎市教育大綱を踏まえて、適切に事業が行われているかを主眼とした。評価に当たっては、教育委員会担当課から内部評価の聞き取りを計2回に分けて行った。

事務評価委員会として、以下のとおり総評する。

総合計画の基本方針に基づき、知徳体のバランスの取れた教育や教育環境の充実により、子どもたちの健全育成を図るとともに、子どもから大人まで全ての市民が学びやスポーツに親しむことにより、たくましいまちをつくるとしている。

事務評価委員会では、教育委員会の82の事務事業について点検及び評価を行ったところ、実施された事業は、おおむね期待した成果があるものと認めた。

事業別の評価結果は、次のとおりであった。

Sランク	・・・	2	事業
Aランク	・・・	78	事業
Bランク	・・・	0	事業
－（評価不能）		2	事業

本市の教育の充実を図るため、令和6（2024）年度は、今後の学区再編に統一性と計画性をもって取り組むために学区再編方針の改訂を行ったほか、教育的ニーズに対応すべく通級指導教室を新設するなど、教育各分野において、事務事業が確実に執行された。

学力向上や特別支援教育、キャリア教育といった基幹事業については、一定の成果が認められ、継続的な努力と工夫が見られる。一方で、支援員や外部人材の確保・定着など、制度的・構造的な課題も引き続き残されている。

また、地域との協働や生涯学習の分野においては、市民の教育参加を促進する仕組みが機能しており、地域教育力の醸成に向けた好循環が形成されつつある。これらを着実に継続・発展させるには、教育委員会内部の連携と同時に、現場との対話をより一層強化する必要がある。

今後は、各事業の成果と課題を定量・定性的に評価し、限られた資源の中で持続可能な教育行政の展開を目指すことを期待する。

項目別の評価は、次のとおりである。

<事務評価委員会における項目別の主な評価等>

第1 教育委員会の会議及び委員の主な活動 (P 6・7)

教育の現状や課題の把握に努め、適切に活動していると認められる。

- ・教育委員が各種事業に積極的に参加し、昨年度に比べ出席数も増加している点は、教育行政への関心と関与の高さが認められる。特に学校訪問を3年に1度実施することで、教育現場の状況を把握しようとする姿勢が評価される。

第2 教育委員会の事務の管理及び執行状況

1 子どもや若者の「たくましさ」をはぐくむ

(1) 知徳体のバランスの取れた教育を進める (P 9－12)

期待した成果があるものと認められる。

- ・スクール・サポート・スタッフ配置事業は、教員免許の有無にかかわらず地域の人材を活用し、学習支援や個別対応に当たっている点は、地域との連携及び学校教育の質的向上に寄与していると評価される。
- ・指導補助員等配置事業は、特別支援教育や個に応じた指導の実現に向けた支援体制として、高い効果が認められる。
- ・部活動外部人材活用事業は、地域移行に伴う丁寧な周知・説明の取組や、教職員の地域参加の意義に関する明確な説明が行われている。今後も、地域との信頼関係の構築に資するよう期待する。
- ・学校読書支援員については、教材との連携や図書の補充支援など、授業づくりの支援において一定の成果が認められる。今後は活用の実態を各校で更に把握し、全体としての活用度向上を希望する。

(2) 地域の人・もの・資源を活かして若者を育てる (P 13－15)

期待した成果があるものと認められる。

- ・通級指導教室の新設は、教員の指導力向上と保護者の負担軽減という両面において、想定を上回る成果が認められる。今後もニーズに応じた整備が求められる。
- ・特別支援教育推進事業は、就学相談の精度が高まり、適正な進学先の判断に寄与しているので、今後も教育的ニーズと必要な支援について、本人・保護者との合意形成を原則とした就学指導をお願いしたい。
- ・地域学校協働活動推進事業は、地域住民と学校の連携を促進することで、地域の教育力の向上に寄与している。特に、地域コーディネーターの配置により、学校・地域間の調整が円滑に進められている点が評価される。

(3) 教育環境を充実させる (P 16 - 19)

期待した成果があるものと認められる。

- ・学力向上推進プロジェクト事業では、小学校での成果が顕著に見られる。学習への取組も高まっており、事業の有効性が認められることから、今後も継続的に取り組み、児童生徒の学力向上が達成されることを期待する。
- ・学校給食費の徴収事務については、公会計への移行により教職員の負担が軽減されている一方で、滞納など保護者の意識の希薄化が一部見られる。児童手当からの徴収に加え、未納者等への対応方法をあらかじめ検討、整備しておく必要がある。

2 学びを通じて地域の「たくましさ」をはぐくむ

(1) 学びの機会を充実させる (P 21 - 25)

期待した成果があるものと認められる。

- ・二十歳のつどいは、代表者選考や式典運営において、参加者自身の主体的な関わりを促している点が評価できる。代表選出が地域性を尊重する形となっており、今後も工夫を期待したい。
- ・木喰仏展示を始めとする博物館の地域文化資源の活用は、文化的価値の高い資料の受入れと活用が進んでいる点が評価される。今後はPR活動の強化による集客力向上を期待する。
- ・「熟睡プラ寝たリウム」などの博物館の特色ある事業は、来館者の多様なニーズに応える柔軟な企画として評価される。今後も企画内容の工夫と利用者満足度の把握に努め、新規来場者やリピーターの獲得を期待する。

(2) 家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する (P 25)

期待した成果があるものと認められる。

- ・市民大学運営事業では、高齢者を中心とした市民の学び直し場として、参加者の満足度や参加率の向上が見られる。講座内容も時代や参加者ニーズに即して改善されており、継続的な運営が望まれる。

3 スポーツを通じた「たくましさ」をはぐくむ

(1) スポーツによる地域づくりや生きがいを進める (P 27・28)

期待した成果があるものと認められる。

- ・学校開放については、学校行事との調整を図り、地域スポーツの振興がされている点が評価される。学校の統廃合が進む中ではあるが、施設の利活用について、地域と丁寧に検討を進めてもらいたい。
- ・スポーツ振興については、各種イベントの参加者数が堅調であり、市内外からの集客力を持つイベントの開催により地域活性化に資する点が認められる。

(2) 全国や世界に通用する競技者を育てる (P 29 - 31)

期待した成果があるものと認められる。

- ・水球のまち推進事業については、全国放送を通じた認知度向上と、市民の誇りにつながる取組が認められる。今後は放送映像の市民向け活用や、観光PRへの波及を期待する。
- ・国際大会等出場激励事業では、複数の地元出身選手の活躍が認められ、地域の若者に夢と目標を与える効果がある。今後も個人の実績を広く市民に伝える広報活動を期待する。

4 歴史や文化の息づく「柏崎らしさ」をつくる

(1) 歴史・文化を保全・活用し、継承する (P 33・34)

期待した成果があるものと認められる。

- ・綾子舞伝承学習事業では、児童生徒を中心とした安定的な参加者確保と、指導者の世代交代が進んでいる点が評価される。今後も地域との連携を強め、次代の担い手育成を継続することを期待する。
- ・WEBミュージアムについては、アクセス数の着実な増加と学校現場での教材的活用が認められる。今後は教育現場との連携強化と、更なるコンテンツの充実を期待する。
- ・遺跡発掘調査事業では、開発との両立を図りながら遅延を発生させずに調査が進められている点が認められる。今後も県や関係機関と連携し、円滑な調査体制を維持することを期待する。

(2) 市民の主体的な文化活動を支援する (P 35)

期待した成果があるものと認められる。

- ・文化会館アルフォーレや産業文化会館での参加型イベント等により、市民の文化活動への参加が促され、にぎわいの創出につながっている点が評価される。芸術分野における高齢化や民間文化団体の減少が続くため、若い世代の興味、関心を呼ぶ工夫、取組を期待する。

5 その他教育関係事務事業 (P 36)

期待した成果があるものと認められる。

- ・人権啓発活動として、市民プラザでの展示等を通じて周知が図られている。引き続き、関係諸団体、教育委員会内の他課とも連携しながらの取組に期待する。

令和7年(2025年)7月24日

柏崎市教育委員会事務評価委員会

委員長 吉田 存祐

副委員長 中村 富美子

委員 山田 信行

委員 北川 雅也

第1 教育委員会の会議及び委員の主な活動

1 教育委員会会議の開催状況

開催月	審 議 事 項 等				報 告 事 項	
	条例、規則等の制定・改廃		人事案件		その他の案件	
4 月定例会	1 件	柏崎市立小・中学校管理運営に関する規則の一部改正	4 件	柏崎市奨学金貸付選考委員会委員の委嘱ほか	3 件	令和 6（2024）年度一般会計補正予算（第 2 号）ほか 令和 6 年度（2024 年度）柏崎市奨学生の選考結果ほか
5 月定例会		—	2 件	かしわぎきこども大学運営協議会委員の解職及び委嘱ほか	1 件	教科書展示会の開催ほか
6 月定例会		—	1 件	教育委員会事務評価委員会委員の委嘱	2 件	令和 6（2024）年度一般会計補正予算（第 6 号）ほか 市議会 6 月定例会議の一般質問ほか
7 月定例会		—		—	1 件	令和 7（2025）年度使用中学校教科用図書採択 2024 第 1 回スポーツレクリエーショングランプリ「モルック大会」を開催ほか
8 月定例会		—		—	3 件	令和 6（2024）年度一般会計補正予算（第 7 号）ほか かしわぎきこども大学「エネルギーのまち、柏崎探求コース」の実施ほか
9 月定例会		—	1 件	柏崎市立博物館運営協議会委員の委嘱	1 件	学区外就学許可 市議会 9 月定例会議の一般質問ほか
10 月定例会		—		—		小中学校学区外就学許可状況（4 月～9 月）ほか 13 件
11 月定例会	2 件	柏崎市立博物館等業務専門員任用要綱の一部改正ほか		—	3 件	令和 6（2024）年度一般会計補正予算（第 12 号）ほか 「マナビイスデージ in かしわぎ 2024」の開催報告ほか 8 件
12 月定例会	1 件	学校給食費の徴収に関する条例施行規則の一部改正		—		市議会 12 月定例会議の一般質問ほか 4 件
1 月定例会	2 件	市立学校設置条例の一部を改正する条例の制定		—	6 件	令和 5（2023）年度一般会計補正予算（第 15 号）ほか 令和 7（2025）年第 94 回元朝体操会が開催されたほか 6 件
2 月定例会	4 件	柏崎市学習指導非常勤講師任用要綱の制定ほか		—	2 件	令和 7（2025）年度教育委員会予算ほか 7 件
3 月定例会	7 件	柏崎市教育委員会職員安全衛生管理規程の一部改正ほか	3 件	令和 7（2025）年度教育委員会事務局等の人事異動内示ほか	2 件	令和 6（2024）年度一般会計補正予算（第 21 号）ほか 市議会 2 月定例会議の一般質問ほか 17 件
計		17 件		11 件		24 件 102 件

2 学校訪問

- (1) 令和6（2024）年 7月17日（水） 比角小学校、槇原小学校、日吉小学校、瑞穂中学校
- (2) 令和6（2024）年10月22日（火） 田尻小学校、北鯖石小学校、中通小学校
- (3) 令和6（2024）年10月23日（水） 第二中学校、東中学校

・学校訪問の趣旨

- (1) 学校訪問を通して、学校の現状や課題、小中一貫教育の取組等を把握し、教育行政に役立てる。
- (2) 学習活動の参観や教職員との懇談等を通して、教育実践の高揚を図る。

・学校訪問の概要

授業や集会など児童生徒の教育活動の参観、校長による学校運営説明、教職員との懇談、教育委員指導など

3 総合教育会議（市長と教育委員会が、市の教育や子育て施策について幅広く話し合う会議）

令和6（2024）年9月24日（火） 市役所

議題

- (1) 学区再編方針の改訂及び指針の設定について
- (2) 学力向上推進プロジェクトの中間評価と今後の取組

令和7（2025）年1月16日（木） 市役所

議題：柏崎市立東中学校と第五中学校の統合について

4 研修会

令和6（2024）年7月19日（金） 新潟県市町村教育委員会連合会定期総会・研修会（上越市）

5 出席事業

4月：鯖石小学校・高柳小学校統合式、教職員辞令交付式、教育委員会招集校長会

5月：二十歳のつどい、市功労者表彰審査会

7月：市功労者表彰式、教科用図書採択協議会、ぎおん柏崎まつりマーチングパレード

8月：教育懇談会

9月：「綾子舞」現地公開

10月：柏崎市美術展覧会（市展）表彰式

11月：綾子舞伝承学習発表会

12月：文部科学省選定映画「夢みる校長先生」

1月：新年賀詞交換会

2月：教育委員会表彰式、荒浜小学校竣工記念式典

3月：小学校卒業式、中学校卒業式

1 子どもや若者の「たくましさ」をはぐくむ

【第五次総合計画・後期基本計画における施策の方針】

未来の担い手となる子どもたちの「生きる力」を育むため、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育む、知徳体のバランスの取れた教育を推進します。

子どもたちが自ら学ぶ意欲を高め、将来にわたり社会の中で生きて働くための学力をしっかりと身に付けさせるため、主体的・対話的で深い学びの視点に立つ授業改善を進めるとともに、デジタル教材を効果的に活用し、基礎学力を向上させる教育を推進します。

また、学校の教育活動全体を通して道徳教育を充実させるほか、地域活動への積極的参加や優れた芸術文化に触れる機会の創設などに取り組み、豊かな人間性を育む教育を推進します。

さらに、子どもたちの体力を高めるために、各校で重点を定めた1学校1取組を進め、運動の楽しさや喜びを味わいながら、自らの体力の向上を実感することができ、教育を推進します。また、食とスポーツを連携させて望ましい生活習慣を確立し、健やかな体を育む教育を推進します。

学校と家庭、あるいは学校と地域や企業等が連携し、より良い生活習慣づくりに取り組みとともに、ふるさと柏崎をこよなく愛する子どもたちを育て、将来の柏崎を担う人材を育成します。

あわせて、良好な教育環境とするため、学校の施設や設備、教材の充実、担任や担当者のニーズに合った研修の推進、心の相談体制の充実、学校施設の計画的な改築や改修、ICT支援員の配置などを進めます。

◆ 主な事業

教育総務課

○ 学区再編事業

令和3(2021)年12月に策定した学区再編方針の一部を改訂するとともに、その改訂に伴う付随事項について指針を設定した。これにより、明確な統合検討基準が追加され、今後の学区再編に統一性と計画性をもって取り組むことができるようになった。

○ 情報機器管理費

これまで未配備であった小学1年生及び2年生にタブレット端末を新たに配備したことにより、小・中学校における一人一台環境の整備を完了することができた。

○ 小学校施設整備事業

3校（枇杷島小学校・剣野小学校・北鯖石小学校）のトイレ改修工事（洋式化）及び田尻小学校の空調設備改修工事を実施したことにより、施設の利便性及び快適性が向上し、良好な教育環境の整備ができた。

学校教育課

○ 通級指導教室事業

通級指導教室の新設により、より多くの児童生徒が専門的な指導・支援を受けることができ、在籍校での適応力が向上した。通級指導教室の環境整備や通級指導担当者主催の研修会を通して、担当者の指導力向上や児童生徒の実態に合った教室環境の整備を図ることができた。

○ 指導補助員等配置事業

指導補助員47名、日本語指導員2名の配置によって、支援が必要な児童生徒への学習指導や生徒指導の充実を図るとともに、一人一人の能力を伸ばす教育が推進された。

○ 学力向上推進プロジェクト事業

学力向上推進員及び指導主事による学校訪問、年3回の研究主任研修会、県外の研究推進校視察などの取組により、教師の指導力向上、児童生徒の学力向上につなげることができた。全国的な学力調査においては、小学校では全国平均を3ポイント以上回る成果を上げることができた。

文化・生涯学習課

○ 地域学校協働活動推進事業

全小・中学校に地域コーディネーター（44名）を配置した。説明会の開催と合同研修会でのグループワークにより、学校と地域の課題を整理して共有することができた。学校と地域住民が共に地域の課題を解決する活動や、地域の行事に学校が参画して、共に地域づくりに関わる活動に取り組むことで、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみでの子どもの育成につなげることができた。

5月15日（水）に学校担当者に向けた「地域学校協働活動推進事業説明会」、11月27日（水）に地域コーディネーター・学校担当者合同研修会」を実施した。説明会には、学校担当者及び行政職員計36名が参加した。研修会には、地域コーディネーター、学校担当者及び行政職員計60名が参加し、地域人材の育成につなげることができた。

図書館

○ 移動図書館事業

移動図書館は利用者が3,073名、貸出冊数が8,941点であった。貸出文庫は利用団体数が63団体、貸出冊数が16,340点であった。館外の各小学校や施設においても多くの図書から主体的に本を選ぶことができるため、読書への興味や意欲が高めることができた。また、図書の種類を都度入れ替えて提供し、読書の幅を広げることに寄与し、市民の読書活動を充実するための支援を行うことができた。

○ 図書館サービス事業

入館者数は前年度並みの257,913人、貸出者数は102,758人、貸出冊数は304,198点で、レファレンス対応などを丁寧に行い、引き続き市民の生涯学習の充実に寄与することができた。学校読書支援員5名が19小学校を巡回し、学校図書館の読書環境整備や児童への読書支援を行い、児童の読書への興味や学習意欲の向上に寄与することができた。市内19小学校の満足度調査では、全体を通して「大変良い」「まあまあ良い」が94.7%との評価を得た。また、柏崎高校の授業の一環である柏崎サイエンスプロジェクト（KSP）活動への支援として、15班64人の生徒にレファレンス※を行い、学校と連携して学習支援を行うことができた。

(1) 知徳体のバランスの取れた教育を進める
アイウ 基礎学力をしっかりと身に付ける教育の推進
他者を思いやり、豊かな人間性をばぐくむ教育の推進
体力を高め、健やかな体をばぐくむ教育の推進

事業事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
学校教育活動推進事業 〔学校教育課〕	14,674	14,147	特色ある教育活動を推進するため、全小・中学校に奨励金を交付した。 ＜奨励金＞（例）柏崎小：218,000円 第一中：245,000円 ＜内訳＞校外学習等の輸送費、各種行事（地域との交流）に係る経費等	○ 各学校が柏崎の豊かな自然をいかした体験活動、キャリア教育、小・中学校と地域が連携した取組などをこれまで以上に工夫して実践し、特色ある教育活動を推進することができた。 ● 各学校が目指す子ども像を確認し、その具現に向けた教育活動となるように事業を推進する。	A
スクール・サポート・スタッフ配置 事業 〔学校教育課〕	5,661	5,437	教員の事務負担を軽減するため、小学校4校（柏崎小、比角小、剣野小、田尻小）にスクール・サポート・スタッフ（SSS）を配置し、教材の印刷や物品の準備、配付物の印刷や仕分け、電話対応や来客受付などの業務を行った。	○ SSS配置校4校において教員の事務負担が軽減され、時間外勤務の時間数が前年度比9%減となった。このことにより、教員が児童と向き合う時間や教材研究に注力する時間を確保することができ、学校評価アンケートにおいて「授業がよく分かる」と回答した児童の割合が増加した。 ● SSSの配置により、教員が児童と向き合う時間や教材研究に注力する時間を確保することで、更に児童の学習満足度が向上するように事業を推進する。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
英語教育推進事業 〔学校教育課〕	30,641	30,156	小・中学校における英語教育と国際理解教育の充実のため、常勤5名、非常勤1名のALT（外国語指導助手）を配置・活用した。小学校の外国語、外国語活動の授業や中学校の英語授業で教諭とのチームティーチング（T.T）などを実施した。	○ ALTとのT.Tにより、児童生徒の英語によるコミュニケーションへの意欲と「聞く・話す・読む・書く」の4技能の向上が見られた。定期的にALT研修を実施し、実践の情報交換を行うことでALTの指導力が向上した。 ● ALTの活用により、異文化や英語への興味・関心をさらに高める。	A
指導補助員等配置事業 〔学校教育課〕	138,684	133,392	小・中学校26校に、前年度より1名多い47名の指導補助員を配置し、学習指導や生徒指導等の充実に向けた支援を行った。 小・中学校4校に2名の日本語指導員を配置し、日本語指導を必要とする児童生徒5名の日本語力向上に向けた支援を行った（鯉波小、田尻小、第一中、第二中）。	○ 指導補助員の配置により、授業のねらいの達成に向けたきめ細やかな指導・支援が行われ、児童生徒一人一人の能力を伸ばす教育が推進された。 日本語指導員の配置により、該当児童生徒の日本語力向上において成果が見られた。 ● 全国学力学習状況調査及び総合学力調査では、学校差が課題となっており、効果的な指導補助員の活用方法を共有していく必要がある。 日本語指導員は、今後もニーズの増加が予想され、指導者の人材確保が課題である。	A
部活動外部人材活用事業 〔学校教育課〕	7,185	5,993	中学校11校に19名の部活動指導員を配置し、部活動の充実に向けた支援を行った。	○ 部活動指導員の配置により、学校部活動や地域クラブにおいて、生徒のニーズに応じた専門的な技術指導が可能となった。 ● 令和8（2026）年度からの休日の部活動地域展開の本格実施に向けて、継続的な部活動指導員の確保、質の向上に努める。	A
小・中学校音楽関連事業 〔学校教育課〕	2,149	1,295	豊かな感性とふるさと柏崎に対する誇りや愛着を育むことを目的に、TOKI弦楽四重奏団を招き、「弦楽四重奏コンサート」を、市内小学5年生・中学1年生が鑑賞する場を設定した。11月22日（金）アルフォーレで、午前・午後の2部構成で開催した。	○ 児童555名、生徒617名が鑑賞し、迫力のある演奏や奏者の姿に魅了された。事後アンケートでは、肯定的な評価が90％以上であり、「また舞台公演を観たい」などの感想があつた。 ● 継続して事業を継続することで、音楽への関心や豊かな感性をさらに高めていく。	A
科学技術教育事業 〔教育センター〕	9,770	8,938	教職員の理科・生活科・総合・環境教育等の専門研修・相談支援のため、研修会を実施した（計37回、参加者数248名）。 科学教育振興として、科学作品展・科学研究発表会・科学のえんま市2024等の事業を実施した（計9回、参加者数1,522名）。 科学教育支援として、学校等の要請研修実施（80回、参加者数2,279名）・教材機器等貸出し（94件）・理科教育相談支援（299件）を行った。	○ 教科研修参加者アンケートにおける肯定的な評価の割合が、「研修内容の分かりやすさ」99.5%、「教材の提案の妥当性」99.5%、「研修を今後の指導に生かしたい」100%と高評価を得ており、現場のニーズに即した研修を実施することができた。 ● 参加者が授業実践へいかすことができ、児童生徒の学力向上につながるような研修を実施していく必要がある。また、科学研究発表会や作品展への参加児童生徒数を維持及び増加させるため、科学研究を指導する教員及び児童生徒、保護者への支援が必要である。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
教職員研修事業 [教育センター]	4,593	4,298	教職員の資質・能力向上のため、対面研修と遠隔型研修を組み合わせて講座を実施した。 講座回数128回（令和5(2023)年度：115回） 受講者数2,375名（令和5(2023)年度：2,540名）	○ 対面型と遠隔型のよさをいかして、学力向上に向けた各教科の講座、ICT※活用に関する研修など、学校現場のニーズ、時代や社会の要請に応える研修講座を数多く実施した。90%以上の参加者から肯定的な評価を得た。 ● 教職員が自分に必要な研修について考え、計画的に研修に参加できるような支援や研修講座の工夫が必要である。	A
一般教材整備費 [学校教育課]	12,993	12,981	小学校に、国語・算数（全学年）、社会（5・6年）、理科（3～6学年）の指導者用デジタル教科書※を整備した。 中学校に、国語・社会・数学・理科・英語（全学年）の指導者用デジタル教科書を整備した。	○ 指導者用デジタル教科書の整備を進め、小・中学校において電子黒板や学習用タブレットとともに一層の活用を図った。課題提示や問題解決の場面で、デジタル教科書を効果的に活用することにより、児童生徒の授業参加への意欲が高まった。 ● 学校や教員によって活用状況の差がある。年度途中の活用状況を確認して利活用の促進を図るとともに、効果的な活用事例を紹介していく。	A
学校医報酬等 [学校教育課]	18,424	17,305	学校医、学校歯科医により全小・中学校全学年及び新年度小学校入学予定者に内科及び歯科検診を実施した。くわえて、耳鼻科及び眼科検診を小学校1、3、5年及び中学校1、3年に実施した。感染症流行時の予防に関し学校医から、学校環境衛生に関し学校薬剤師から助言を受けた。	○ 小・中学校の児童生徒に対して法令に基づいた健康診断を実施し、健康な学校生活の基盤づくりに寄与した。 ● 引き続き学校医等と連携しながら児童生徒の健康の保持増進を図っていく。	A
検診費 [学校教育課]	8,804	6,451	小・中学校の児童生徒に定期健康診断と関連し検診を実施した。受診者数は、検尿（一次・二次）4,960人、心臓検診1,074人、運動器検診25人、小児生活習慣病予防検診31人であった。また、教職員のストレスチェック事業、健康診断（定期健康診断・歯科検診）を実施した。	○ 小・中学校の児童生徒及び教職員に対して、法令に基づいた健康診断を実施し、健康な学校生活の基盤づくりに寄与した。 ● 児童生徒及び教職員の心身の健康上の課題について、継続的に把握・検討していく必要がある。	A
むし歯予防対策費 [学校教育課]	3,986	2,999	学齢期歯科保健事業（歯科健康教室、就学時保護者歯科健康教育、継続的歯科保健活動支援事業）の歯科衛生士派遣及び歯科保健教材を活用したむし歯予防、歯肉炎予防などの歯科保健活動を実施した。フッ化物洗口事業を全小・中学校で保護者の同意を得て実施した（実施率96.8%）。	○ 令和5（2023）年度と比較し、むし歯有病者率は小学生は増減なしの5.2%、中学生は19.3%から17.9%に減少した。歯肉の状態が要観察・要精検である率は、小学生が11.7%から9.1%に、中学生が17.3%から14.8%に減少し、児童生徒のむし歯予防、歯肉炎予防の成果が表れた。 ● 学齢期からのむし歯予防や歯肉炎予防のため、引き続き事業を継続していく必要がある。	A

8

9

10

11

12

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	〇＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
学校保健推進費 [学校教育課]	8,835	8,067	検診器具管理の業務委託により、器具の消毒と配送業務が遂行された。 健康観察や出欠確認に健康観察アプリを利用した。 外部講師（助産師）による思春期保健に関する専門的な指導を中学校11校で行った。	〇 検診器具の適切な管理により、健康診断を安全に実施できた。健康観察アプリを使用した健康チェック、外部講師による専門的指導は、児童生徒、保護者及び教職員の健康意識向上に有効であった。 ● 健康診断結果集計表を紙冊子から電子データに移行し、利便性を高める。	A
移動図書館事業 [図書館]	3,155	1,894	移動図書館 市内18小学校（柏崎小学校を除く。）に月1回程度巡回し、児童の読書推進を図った。161回（令和5(2023)年度152回） ・貸出利用…3,073人、8,941点（令和5(2023)年度2,897人、8,912点）※1人当たり貸出点数2.9点（令和5(2023)年度3.1点） 貸出文庫 コミセンや介護福祉施設、幼稚園・保育園等63（令和5(2023)年度64）の希望団体に40～50冊程度の図書を貸し出し、施設利用者の読書推進を図った。 ・利用数…16,340点（令和5(2023)年度16,620点）	〇 館外の各小学校や施設においても多くの図書から主体的に本を選ぶことができたため、読書への興味や意欲を高めることができた。また、図書の種類を都度入れ替えて提供し、読書の幅を広げることにより、市民の読書活動を充実させる支援を行うことができた。 ● 市民が充実した読書機会を得られるよう、引き続き事業を継続し活用を促していく必要がある。移動図書館は、多くの市民から広く利用してもらうため、小学校以外の他の施設への巡回を検討していく必要がある。	A
図書館サービス事業 [図書館]	64,341	61,410	資料の整理・貸出し・登録・修理など利用者の環境整備とソフイアだよりの発行やホームページなどにより広報を行った。また、資料の特設展示を41回（令和5(2023)年度43回）行った。 ・貸出者数 …102,758人（令和5(2023)年度100,835人） ・貸出冊数 …304,198点（令和5(2023)年度307,228点） ・入館者数 …257,913人（令和5(2023)年度258,668人） 利用者のレファレンス照会に対応した。 ・対応実績 …1,048件（令和5(2023)年度1,083件） 柏崎高校おすすすめ図書の紹介と「柏崎サイエンスプロジェクト（KSP）」の活動支援を実施した。 ・利用実績 …15班64人（令和5(2023)年度12班59人）	〇 丁寧なレファレンス対応など、市民の生涯学習への支援を行うことで、1日当たりの平均入館者数777人と前年度並みの入館者数を維持することができた。 また、柏崎高校の柏崎サイエンスプロジェクト（KSP）活動への支援を継続することにより、高校図書室とも良好な連携が行われた。 小学校に対しては、学校読書支援員の巡回支援により、児童の読書への興味や学習意欲の向上に寄与することができた。 ● 読書環境の充実や読書機会の創出に引き続き取り組むとともに、積極的な情報発信をすることで、幅広い市民からの図書館施設の利用促進を図る必要がある。 学校読書支援員による各小学校図書室の支援体制を継続するとともに、中学校図書室の環境整備について支援の必要性を検討する必要がある。	A

(2) 地域の人・もの・資源を活かして若者を育てる
ア ふるさと柏崎をこよなく愛し、発展させる人材の育成
イ 教育における学校・家庭・地域の連携
ウ 子どもの健全育成支援の推進

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
かしわざきこども大学事業 〔学校教育課〕	4,612	3,174	地域団体や大学等と連携して6コースの事業を実施するとともに、こどもの笑顔創造プロジェクト及び学校教育活動推進事業を実施した。 自然体験コース (31園497名参加) キャリア教育コース (4校282名参加) ものづくり工作コース (工作教室15名参加) こどもの笑顔創造プロジェクト (9団体延べ4,513名参加)	○ 地域団体や大学等と連携し、学校や家庭だけでは体験できない様々な活動の場を提供し、ふるさと柏崎への誇りや愛着を育むとともに、生涯にわたって学び続ける意欲や態度を喚起することができた。 ● 財源であるかしわざき子ども育成基金の残高が減少している。今後は、事業の継続期間も含め、新たな財源の確保、事業継続のために実施内容を見直す必要がある。	A
通級指導教室事業 〔学校教育課〕	557	506	創野小学校に発達障害通級指導教室が新設された。指導に必要な教材や教材研究のための書籍購入等の支援、通級指導教室の環境整備を行った。 支援、通級指導担当者主催の研修会は、年3回実施した。 〈通級指導教室利用児童生徒数〉 小学校：263人 (令和5(2023)年度：260人) 中学校：87人 (令和5(2023)年度：80人)	○ 通級指導教室の新設によって、より多くの児童生徒が専門的な指導・支援を受けることができ、在籍校での適応力が向上した。また、担当者の指導力向上、教室環境の整備につながり、児童生徒の多様な教育的ニーズに対応することができた。 ● 通級指導教室を利用する児童生徒の増加や教育的ニーズの多様化が顕著に見られる。通級指導教室の新設も含め、教室環境の整備や指導のために必要な情報端末等の更新、指導者の育成等が必要である。	S
特別支援学級介助事業 〔学校教育課〕	96,783	94,551	小学校15校に、34名の特別支援学級介助員を配置し、特別支援学級に在籍する児童が安心して生活できるよう支援した。指導力で充実した学校生活を送れるよう支援した。指導力向上のため研修を充実させた。 〈特別支援学級在籍児童生徒数〉 小学校：167人 (令和5(2023)年度：190人) 中学校：87人 (令和5(2023)年度：97人) 〈特別支援学級数〉 小学校：41学級 (令和5(2023)年度：43学級) 中学校：22学級 (令和5(2023)年度：19学級)	○ 特別支援学級に在籍する児童の個性・特性に応じて適切に介助員を配置したことにより、児童生徒の落ち着いた学習活動や安定した学校生活につながった。研修を通して、児童の特性に応じた具体的支援方策について理解を深めることができた。 ● 特別支援学級在籍児童一人一人の特性に応じた適切な支援の在り方について、継続的に研修を重ねていく。	A
特別支援教育推進事業 〔学校教育課〕	7,189	6,994	特別支援教育会議では、幼児部会・小中部会合わせて、153件の審議を行った。園巡回訪問、小・中学校の授業参観、発達検査等を行い、障害の種類や程度に応じた個別の支援の必要性を判断した。 スクールサポート巡回相談では、前期と後期を合わせて53件の相談依頼があり、専門員が分担して巡回相談を行った。	○ 専門員による丁寧な調査活動により、保護者の理解を得られ、おおむね適正な就学につながる判断を出すことができた。 ● 複雑な要因のあるケースへの対応が増えている。特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターはもちろん、通常学級担任も含めた全ての教職員について、特別支援教育に関する資質向上のための研修の充実が求められる。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
キャリア教育推進事業 〔学校教育課〕	1,306	958	起業学習モデル校事業を2校で実施した。市内の起業家から直接学ぶことで、生徒のチャレンジ精神や探求心を育んだ。 キャリア教育講演会は、中学校で、延べ32の個人・団体を講師に招いて、生き方、柏崎の文化、農業、福祉、職業等に関するキャリア教育講演会等を行った。	○ モデル校事業では、年度当初に外部講師と綿密な打合せを行い、これまでの成果と課題をいかした取組ができた。2校で学習成果を交流する場として「ブレゼンコンテスト」を設けることで、生徒の更なるチャレンジ精神や探究心を育むことができた。 ● 学校現場のニーズを捉えた事業、ふるさと柏崎の魅力や人の生き方にふれる事業を継続して展開すること、柏崎の未来の活性化を図る人材を育成している。	A
就学援助費 〔学校教育課〕	81,322	65,460	経済的理由で就学困難な児童338名、生徒243名の保護者に、小・中学校における必要経費（学用品費、学校給食費等）の一部を援助した。また、令和7（2025）年度に入学期の経済的理由で就学困難な児童25名及び生徒60名の保護者に、新入学学用品費等を入学前に援助した。	○ 就学援助費の支給を通して、該当児童生徒の充実した学校生活を支援するとともに、保護者の負担軽減を図ることができた。 ● 小・中学校の在籍児童・生徒数は年々減少しているが、在籍児童生徒数に占める認定者の割合は変わりがなく、今後も継続して事業を行う必要がある。また、条件に該当しながら申請しないケースもあり、学校と連携しながら保護者への制度周知を徹底していく必要がある。	A
就学奨励費 〔学校教育課〕	10,889	7,246	特別支援学級に在籍する児童104名・生徒48名、他校の通級指導教室に通う児童49名・生徒11名の保護者に、小・中学校における必要経費（学用品費、学校給食費、交通費等）の一部を援助した。	○ 特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に奨励費を支給し、保護者の経済的負担を軽減し、特別支援教育の普及奨励に寄与した。 ● 電子申請フォームを活用することにより、申請の利便性を向上させ、より多くの世帯に制度の利用を促す必要がある。	A
心の教室相談員事業 〔学校教育課〕	1,451	1,383	県のスクールカウンセラーの派遣回数の少ない中学校6校に、6名の「心の教室相談員」を配置した。日常生活の何気ない関わりから、不安や悩みを抱える生徒に対し丁寧な対応を行った。生徒との関わりは延べ3,638件、教育相談は296件の報告があった。昨年度よりも相談員と継続して相談する生徒が増えた。	○ 学校の実態に応じたきめ細やかな相談支援業務を実施することができ、生徒の悩み軽減や自己肯定感の向上につながった。 ● 相談内容が多様である。学校と相談員の連携がより求められる。相談員の確保も課題である。	A
地域で育む子ども育成事業 〔文化・生涯学習課〕	600	470	市内小中学校PTA及び柏崎市小中学校PTA連合会（市P連）が実施する子ども育成事業について、市P連と協力して、費用の一部負担等の支援を行った。 ・市P連事業 2事業（令和5（2023）年度 2事業） ・各PTA団体事業 27事業（令和5（2023）年度 19事業）	○ 各種研修会等の事業を開催したこと、市P連、地区PTA会員の知識を深めるとともに、子ども達の健全育成にもつながった。 新道小学校PTAが令和6年度新潟県小中学校PTA連合会会長表彰を受賞した。 ● 子ども達を取り巻く環境は、日々変化しているため、PTA会員の知識向上を図る上で、今後も各種研修会等への支援を続けていく必要がある。	A

事業事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
地域学校協働活動推進事業 〔文化・生涯学習課〕	3,861	2,712	全小・中学校に地域コーディネーター（44名）を配置し、従来の地域が学校を支援するという一方の活動から、学校と地域住民が共に地域の課題を解決する活動や地域の行事に学校が参画して、共に地域づくりに関わる活動に取り組むことで、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみで育成につなげる。 5月15日（水）に学校担当者に向けた説明会を開催し、学校担当者及び行政職員計36名が参加した。また、11月27日（水）にコーディネーター・学校担当者を対象とした合同研修会を開催し、地域コーディネーター、学校担当者及び行政職員計60名が参加した。	○ 合同研修会でのグループワークにより、学校と地域の課題を整理、共有することができた。学校と地域住民が共に地域の課題を解決する活動や、地域の行事に学校が参画して、共に地域づくりに関わる活動に取り組むことで、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみでの子どもの育成につなげることができた。 ● 引き続き学校や地域の課題を整理し、共有することで地域の人材の積極的な参画を狙い、地域ぐるみで子どもの育成に携わっていく必要がある。	A
子どもフエスタ運営事業 〔文化・生涯学習課〕	61	61	柏崎市子ども会連合会と協働し、子どもの心身の健康を増進し情操を豊かにすることを目指し、トライウォーク&こどもフエスタ、こどもスポーツフェスタ、冬のこどもフエスタを開催した。 ・トライウォーク&こどもフエスタ 参加者130人（令和5（2023）年度 118人） こどもスポーツフェスタ 参加者132人（令和5（2023）年度 87人） ・冬のこどもフエスタ 参加者471人（令和5（2023）年度 391人）	○ イベント内容を精査し、よりよい活動の場を提供することができた。また、体験活動や参加者相互の交流を通して、青少年の健全育成に寄与することができた。 ● 活発な事業実施を目指し、内容の改善や更新に取り組む。子ども会活動の活性化のために本事業を活用してもらえるよう、地域の子ども会との連携を深める必要がある。	A

(3) 教育環境を充実させる
ア 良好な教育環境の整備
イ 教育現場のICT環境の充実

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
学力向上推進プロジェクト事業 〔学校教育課〕	4,263	4,203	学力向上推進員及び指導主事4名による学校訪問を全小・中学校に3回ずつ実施し、授業づくりについての指導・助言や良い実践の情報発信を行った。また、研究主任研修会を年3回実施し、児童生徒の学力向上に向けた各校の校内研究の充実結び付けられた。さらに、国語、算数・数学の授業力向上に向けた小・中学校教職員向けの研修を実施した。また、県外の研究推進校視察（富山県堀川小、石川県加賀市教育委員会等）の報告会では、先進的な取組について全小・中学校で情報共有し、各校の実践にいかせるようにした。	○ 全国学力学習状況調査（小6・4月実施）において、小学校国語は全国比＋4.3ポイント、小学校算数＋0.6ポイントと全国平均を上回った。総合学力調査（小1～6年・12月実施）においては、実施教科平均は全国比＋3.0ポイントとなり、成果を上げている。 ● 全国学力学習状況調査（中3・4月実施）において、中学校国語は全国比－3.1ポイント、中学校数学－7.5ポイントと全国平均を下回った。総合学力調査（中1～2年・12月実施）においては、実施教科平均は全国比－0.3ポイントとなり、全国平均に近づいてきている。	A
環境衛生検査費 〔学校教育課〕	1,260	1,253	学校薬剤師による学校環境衛生定期検査及び学校給食衛生管理定期検査を実施した。	○ 小・中学校及び学校給食共同調理場で適正に衛生検査を実施し、健全な教育環境が保たれた。 ● 健全な環境を維持するために法令に基づいた検査を継続する必要がある。	A
学区再編事業 〔教育総務課〕	(15)	(13)	令和4(2022)年度から令和5(2023)年度の2年間にわたって行われた学区等審議会の審議や答申の内容、地域住民や保護者から寄せられた意見を踏まえ、9月に学区再編方針を改訂し、その改訂に伴う付随事項について指針を設定した。	○ 明確な統合検討基準が追加され、今後の学区再編に統一性と計画性をもって取り組むことができるようになった。 ● 児童生徒数の推移を毎年広報かしわざきに掲載し、基準に基づき統合の検討を開始すべき時期を対象地域及び保護者に継続して周知していく。	A
奨学金貸付事業 〔教育総務課〕	42,729	42,712	経済的な理由により大学・短期大学・専修学校（専門課程）への就学が困難な学生に学資の貸付けを行った。 ・令和6(2024)年度貸付者総数 63人（令和5(2023)年度:56人） ・令和6(2024)年度新規貸付者 23人（令和5(2023)年度:21人）	○ 新規貸付者23人を含む63人に貸付けをし、教育の機会均等の向上が図られた。 ● 学生が更に利用しやすい制度とするために、社会情勢等に合わせた制度の見直しを行っていく。	A

事業事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
31 学校管理運営費 (校舎戸締り等委託業務経費) [教育総務課]	3,565	3,379	教職員の働き方改革及び多忙化解消の一環として、小学校5校、中学校5校をモデル校に選定し、教職員の負担となっていた日直業務を民間に委託するとともに、日直業務員が退校を促すことにより長時間勤務の改善を図った。	○ 日直業務員の導入により、午後7時30分完全退勤を推進し、教職員の働き方改革及び長時間勤務の改善が図られた。 ● 日直業務員を配置していない学校について、退勤時間が遅くなる傾向が見られる。また、委託先の日直業務員の継続的な確保が厳しい状況である。	A
32 学校用務員委託事業 [教育総務課]	113,332	113,331	用務員業務を民間事業者にて委託し、全ての小・中学校に用務員を配置している。 令和6(2024)年8月1日から令和9(2027)年7月31日までの3年間の長期継続契約である。	○ 学校用務員業務を適正かつ確実に行い、学校教育環境の維持が図られた。 ● 学校及び受託者と連携しながら、用務員の資質の維持・向上を図り、学校教育環境の適切な管理を行っていく。	A
33 通学支援事業 [教育総務課]	122,647	105,724	・遠距離通学の児童生徒に対して、通学支援(スクールバスの運行や通学定期券の支給)を実施した。登下校のほか、校外学習等の移動手段として利用した。 ・スクールバスの校外利用申請の受付及び運行手配業務を運行委託事業者にて委託した。 【通学距離基準】 ・小学生：片道 2.5km 夏期4.5km、冬期3.5km ・中学生：片道 夏期4.5km、冬期3.5km 【通学支援を受けた人数】 ・令和6(2024)年度 579人 ・令和5(2023)年度 583人	○ スクールバスの運行計画の再編を行うことにより、遠距離通学の児童生徒の負担軽減が図られた。また、スクールバス校外利用申請受付業務を運行委託事業者にて委託し、業務の効率化を図った。 ● 児童生徒の安全な通学支援を行うために、適正な運行管理を行うとともに、車両を良好な状態で運行するため、老朽化した車両を計画的に更新する。また、学校の意見を聞きながら児童生徒が通学しやすい環境を整備する必要がある。	A
34 情報機器管理費 [教育総務課]	279,670	265,947	・包括アウトソーシング(令和5(2023)年4月1日～令和10(2028)年3月31日)を外部委託し、教務室、教室等の情報環境の整備及び情報機器の保守管理を効率的に実施した。 ・小学校1、2年生にタブレット端末を新規で配備し、一人一台端末環境を整備した。	○ 教育ICTの促進及び校務の効率化が図られた。また、GIGAスクール構想※を推進するため、引き続きICT支援室を設置し、児童生徒及び教職員が情報機器を有効に活用するための支援を行うことができた。 ● ICTを活用した情報教育の更なる促進のため、必要な情報機器等の活用方法や支援策を検討する必要がある。	A
35 学校施設等長寿化事業 [教育総務課]	15,500	13,420	剣野小学校大規模改修工事の実施設計を行った。	○ 老朽化部分の大規模改修工事の設計を実施し、安全・安心な教育環境整備のための準備ができた。 ● 児童の安全・安心、また、災害時の地域住民の避難所・避難場所としての機能を果たす学校施設とするため、「学校施設等長寿化計画(個別施設計画)」に基づいた計画的な改修を進めていく必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
36 小学校施設整備事業 〔教育総務課〕	473,600 繰越明許 (※) 116,800	102,515 繰越明許 84,597	枇杷島小学校・剣野小学校・北鯖石小学校のトイレ改修工事、田尻小学校の空調設備改修工事、特別教室空調設置工事の設計を実施した。 予算現額473,600千円には令和7（2025）年度に明許繰越する369,600千円が含まれている。	○ トイレ洋式化、空調設備の改修により、児童にとって安全・安心で、かつ、良好な教育環境の整備ができた。 ● 老朽化により、早急な改修を要する施設が増加していることから、児童の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境の整備を継続して進めていく必要がある。	A
37 荒浜小学校改築事業 〔教育総務課〕	397,600 繰越明許 (※) 1,588,278	35,997 繰越明許 1,581,178	令和5（2023）年度に引き続き、新校舎の改築（Ⅱ期）工事及び工事監理を実施した。あわせて、体育館の部分改修工事を実施した。また、新校舎で使用する施設備品の購入、旧校舎棟の解体工事及びグラウンド整備工事に係る設計を行った。 予算現額397,600千円には令和7（2025）年度に明許繰越する360,000千円が含まれている。	○ 校舎棟の改築工事完了後、築後50年以上が経過し、老朽化した校舎から新校舎に移転したことにより、安全・安心で、かつ、快適な教育環境を整備することができた。 ● 令和7（2025）年度に予定している旧校舎棟解体工事及び令和8（2026）年度に予定しているグラウンド整備工事を計画的に行っていく必要がある。	A
38 中学校施設整備事業 〔教育総務課〕	419,000 繰越明許 101,100	90,337 繰越明許 79,566	第二中学校及び瑞穂中学校のトイレ改修工事、瑞穂中学校の屋上防水・バスケットゴール改修工事、鏡が沖中学校プール解体工事、特別教室空調設置工事の設計を実施した。 予算現額419,000千円には令和7（2025）年度に明許繰越する322,300千円が含まれている。	○ トイレ洋式化、防水改修等を実施したことにより、生徒にとって安全・安心で、かつ、良好な教育環境の整備ができた。 ● 老朽化により、早急な改修を要する施設が増加していることから、生徒の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境の整備を継続して進めていく必要がある。	A
39 中学校グラウンド補修事業 〔教育総務課〕	繰越明許 244,815	繰越明許 186,730	瑞穂中学校グラウンドの劣化した表面舗装と排水機能を改善するための改修（Ⅰ期）工事を実施した。予算執行残については、令和7（2025）年度予算に繰越する。	○ グラウンド（野球場・トラック等）を改修し、安全・安心な屋外教育環境整備ができた。 ● 令和7（2025）年度に予定しているグラウンド改修（Ⅱ期）工事を計画的に行っていく必要がある。	A
40 学校施設長寿命化事業 〔教育総務課〕	793,000 繰越明許 458,000	19,580 繰越明許 349,490	第三中学校大規模改修工事の実施設計を行った。また、実施設計に基づき、令和6（2024）・令和7（2025）年度継続事業の鏡が沖中学校大規模改修（Ⅰ期）工事を実施した。 現年度予算のうち、令和7（2025）年度予定工事での国の令和6（2024）年度補正予算の交付金事業採択を受けたものについて、令和6（2024）年度に前倒し補正し、令和7（2025）年度予算に繰越する。	○ 老朽化部分の大規模改修工事の設計を実施し、安全・安心な教育環境整備のための準備ができた。また、長寿命化に係る大規模改修工事を計画的に実施することができた。 ● 生徒の安全・安心、また、災害時の地域住民の避難所・避難場所としての機能を果たす学校施設とするため、「学校施設等長寿命化計画（個別施設計画）」に基づいた計画的な改修を進めていく必要がある。	A

事業事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
41 東中学校改築事業 〔教育総務課〕	通次繰越 536,971	通次繰越 276,905	令和5(2023)・令和6(2024)年度継続事業の旧校舎等解体(Ⅱ期)工事、グラウンド整備(Ⅱ期)工事を実施した。	○ 旧校舎等の解体工事及びグラウンド整備工事を計画的に完了することができた。 ● 改築事業に係る工事は全て完了したが、引き続き、生徒の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境が維持されるように管理を行う必要がある。	A
42 給食施設管理経費 〔教育総務課〕	43,186	42,007	学校給食共同調理場に対して国の定めた衛生管理基準に沿った施設管理及び環境整備を行った。	○ 学校給食の衛生管理基準に沿った施設管理ができた。 ● 現行の衛生基準に則した施設整備を維持し、安全・安心に給食を提供するため、老朽化した設備の入替えを行う必要がある。	A
43 給食業務運営経費 〔教育総務課〕	301,483	299,012	給食調理業務を民間事業者に委託し、給食提供に必要な調理員等を配置している。 令和6(2024)年4月1日から令和9(2027)年3月31日までの3年間の長期継続契約である。 衛生検査及び設備の入替えを行い、衛生事故や異物混入の未然防止を図った。 小学校20校、中学校11校及びはまなす特別支援学校に安全安心な学校給食を提供することができた。	○ 児童生徒に安全安心な給食の提供が滞りなく行われた。 ● 共同調理場の統廃合及び受配校の見直しを確実に進め、効率化や経費削減に努める必要がある。	A
44 学校給食費 〔教育総務課〕	396,285	387,715	学校給食費を市が保護者から直接徴収し、給食食材の購入及び支払いを行っている。 急激な物価高による食材費高騰にも公費で対応でき、安定した学校給食の運営ができた。	○ 物価高による食材費の高騰に対処が素早くでき、保護者の負担軽減ができた。 ● 学校給食費未納者が一定数おり、有効な徴収対策を行う必要がある。 食材の高騰が続いており、保護者から徴収する給食費と公費から支出する給食費の見直しを行う必要がある。	A

2 学びを通じて地域の「たくましさ」をはぐくむ

【第五次総合計画・後期基本計画における施策の方針】

誰もが生涯を通じて、共に学び、学んだことを活かして活躍できる環境をつくるため、いつでも、どこでも学べる機会を創出するとともに、様々な機関・施設・団体と連携しながら、多様な生涯学習ニーズに対応する学習内容を提供します。

図書館や博物館は、生涯学習に活用される社会教育環境の充実に取り組むとともに、ICTの進展に対応できるよう施設や設備の改修を計画的に行います。

学びの成果を地域社会における様々な地域活動、教育活動に活かせるよう、多様な主体と連携した生涯学習を推進します。

◆ 主な事業

文化・生涯学習課

○ マナビイステージ開催事業

令和6（2024）年度は、11月9日（土）、10日（日）に市民プラザで開催した。
ステージ発表では18団体（令和5（2023）年度19団体）、作品展示発表では、8団体（令和5（2023）年度7団体）の参加となった。総来場者数は延べ810人（令和5（2023）年度960人）となった。

日頃の柏崎公民館（学習プラザ等）での学習の成果を発表することで、活動している団体の目標（励み）にもつなげることができ有効であった。

○ 二十歳のつどい運営事業

若者の門出を祝福するとともに、成人としての自覚と社会参加を促すことを目的として、令和6（2024）年5月3日（金・祝）に成人式を開催した。
対象者773人に案内状を送付し、当日は567人が参加した。家族観覧者は182人であった。市を挙げて若者を祝福するとともに、ふるさと柏崎への愛着や誇りを感じてもらうことにつながった。

○ 公民館講座運営事業

エিজレスコース・シニアコースを統合し、令和6（2024）年度から市プラススクールという名称で全年齢向けの講座を開講した。また、小学生の夏休みや冬休みに合わせた創作活動や実験、親子の交流の場となることも・親子向け講座を開講した。市内他施設において当該事業と類似する講座を開講していること等から、講座数や内容の精査を図った。
市民のニーズに合わせ、交流を通じて生きがいや学ぶ楽しさを見い出す学習機会を提供することができた。

全年齢講座は、30講座延べ47回開講し、延べ687人が受講した。こども・親子向け講座は10講座延べ10回開講し、延べ149人が受講した。

図書館

○ イベント・講座開催

「ぬいぐるみお泊まり会」、「なつかし体験in別荘」、「科学と絵本を楽しむクリスマスマスレクチャー」等、体験しながら読書に親しむイベントを新たに開催し、深い学びとともに読書推進することができた。また「柏崎の郷土玩具ワークショップ」では、地域文化に触れる機会を提供することができた。

読み聞かせボランティアの育成・研修を行い、読書活動を推進することができた。はじめての絵本セミナー「えほんライブ」に34組70名、絵本の読み聞かせボランティア交流研修会に26名の参加があった。

ブックスタート事業では、乳児283名に絵本566冊を配付した。また、ブックスタート事業のフォローアップとして「ふれあいブックスタート」を毎月開催し、絵本を渡すだけでなく、絵本を活用して親子の絆を深めることの大切さを伝えた。保護者アンケートでも「大変良い」が98%、絵本を「とても活用している」「活用している」が計98%の評価を得た。親子での読み聞かせの大切さや家庭での読書習慣の重要性を十分に伝えることができた。

博物館

○ 博物館振興事業

他機関等と連携を図りながら、市民共有の財産である収蔵資料等を活用した当市固有の地域資産や文化を発信する企画展等を行い、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与することができた。

また、学習指導要領に沿った取組では、毎年度テーマを変えながら「むかしのと道具」展を開催している。令和6（2024）年度は、小学校3年生の学習の場等として12校の利用があり、多くの児童が学習の機会を得ることができ有効であった。なお、展示解説や体験では、教育効果を考慮して児童を少人数にグループ化し、ボランティアガイドも登用しながら巡回型で行う等の取組を行い、学校の授業時間に支障なく実施することができた。

○ プラネタリウム管理運営費

定期投影等では子どもから大人まで楽しめる番組を選定し、学習投影では内容の充実を図ることにより、天体学習の興味や理解を深めてもらうことができた。
また、「熟睡プラネタリウム」といったイベント投影は、季節ごとに合計4件を実施することができた。

(1) 学びの機会を充実させる
ア 多様な学習・交流機会の提供
イ 社会教育環境の充実

事業事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
マナビイステージ運営事業 [文化・生涯学習課]	590	590	柏崎公民館（学習プラザ等）で生涯学習活動を行っている団体で実行委員会を組織し、11月9日（土）、10日（日）にマナビイステージを開催した。 参加団体 ステージ発表 18団体（令和5（2023）年度19団体） 作品展示発表 8団体（令和5（2023）年度7団体） 入場者数 ステージ発表 375人（令和5（2023）年度509人） 作品展示発表 435人（令和5（2023）年度451人）	○ プログラムの見直しを行い、経費の削減につなげた。 参加団体数は前年度同数だったが、そのうち4団体が新規の団体だった。 ● 学習の成果を発表する場及び各種団体の交流の場として、今後も継続して開催する。 また、参加団体が固定化されないよう、新規団体の参加を促していく必要がある。	A
社会教育委員会議運営事業 [文化・生涯学習課]	423	179	第四次生涯学習推進計画（計画年度令和4～7年度）の進行状況を報告し、内容について審議を行った。また、自主研修として取り組んだ「公民館分館との連携」について検討を行った。 ・委員数13名（定員17人以内） ・会議の開催回数 2回 ・第四次生涯学習推進計画の進行審議 ・研修会、研究大会の参加	○ 第四次生涯学習推進計画の進行管理のため、社会教育委員会から審議をしていた。 県、中越の研修会に参加するとともに他市の情報を収集し、社会教育、生涯学習の知識を高めることにつながった。 自主研修における、「公民館分館との連携」について検討できた。 ● 第四次生涯学習推進計画の実行性を高めるため、定期的に、継続的に社会教育委員会議で審議を行う必要がある。 また、各種研修会に参加し、他市の取組状況など情報を収集する必要がある。	A
市民プラザ管理事業 [文化・生涯学習課]	120,219	117,506	能登半島地震における可動観覧席の修繕や、温水器の修繕を行い、適切に管理した。 ・年間利用者数 学習プラザ 50,836人（令和5（2023）年度 44,390人） 交流プラザ 24,862人（令和5（2023）年度 24,495人） 計 75,698人（令和5（2023）年度 68,885人）	○ 修繕を実施し、施設の適正管理に努めた。 ● 竣工後24年が経過し、老朽化が進んでいるため、計画的な修繕計画を策定する必要がある。 また、学習や交流の場所として利用してもらうよう施設の適正管理に努める必要がある。	A
二十歳のつどい [文化・生涯学習課]	1,333	1,093	若者を祝福するとともに、成人としての自覚と社会参加を促すことを目的として、令和6（2024）年5月3日（金・祝）に成人式を開催した。 ・参加対象者 773人（令和5（2023）年度 845人） ・参加者 567人（令和5（2023）年度 620人） ・家族観覧者 182人（令和5（2023）年度 173人）	○ 参加者にとって安全安心な開催となるよう、会場での滞留を避けるために、参加者及び家族観覧者の動線を分ける等の対策を行った。 ● 若者のこれからの門出を祝福し、成人としての自覚と社会参加を促す機会として、今後も継続して開催する。また、他県及び他市の開催状況を注視し、開催方法の検討及び運営の工夫に取り組む必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
公民館講座運営事業 〔文化・生涯学習課〕	2,444	1,524	エイジレスコース・シニアコースを統合し、令和6(2024)年度から市ブラスクールという名称で全年齢向け講座を開講した。また、小学生の夏休みや冬休みに合わせた創作活動や実験、親子の交流の場となることも・親子向け講座を開講した。 【全年齢講座】 ・令和6(2024)年度（講座数は種類） 講座 …開催30講座（延べ47回） （R5年度エイジレスコース 39講座延べ59回） （R5年度シニアコース 35講座延べ49回） 延べ人数 …687人 （R5年度エイジレスコース 645人） （R5年度シニアコース 695人） 【こども・親子向け講座】 ・令和6(2024)年度（講座数は種類） 講座 …開催10講座（延べ10回） （R5年度こども向けコース 16講座延べ16回） 延べ人数 …149人 （R5年度こども向けコース 256人） 託児サービス …6人 （R5年度こども向けコース 7人）	○ 市民のニーズに合わせ、交流を通じて生きがいや学ぶ楽しさを見いだす学習機会を提供することができた。また、全年齢向けの講座でPR動画を撮影し、市SNSに投稿することで、多くの市民に情報を届けることができた。 ● より多くの方々に学習機会を提供するため、引き続き講座内容、周知方法等を工夫し、魅力ある講座にしていける必要がある。また、新規申込者を取り込むために、市SNSのアクセス状況を踏まえながら、効果的な情報発信を行うとともに、新たな講座内容の企画をしていく必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
イベント・講座開催費 【図書館】	1,903	1,526	イベント・講座 【土曜日は絵本の時間。】 ・12回 延べ109人（令和5(2023)年度12回延べ126人） 【映画上映会】 ・42回 延べ545人（令和5(2023)年度53回延べ476人） 【キッズシアター等特別上映会】 ・7回 延べ261人（令和5(2023)年度7回延べ184人） 【雑誌リサイクル市】 ・2回 延べ122人（令和5(2023)年度2回延べ128人） 【駅前公園イベント】 移動図書館車参加（商業観光課と連携）延べ65人 【その他新規講座】・スマホ活用講座3人、・図書館de健康づくり9人 柏崎市子ども読書活動推進計画の施策の取組 子どもの読書活動啓発のため、各関係機関等と連携し施策を実施した。 【新規イベント】・なつかし体験in別荘（別荘農圃・工房と共催）9人、・ぬいぐるみお泊まり会（子ども22人と保護者、・科学と絵本を楽しむクリスマスレクチャー 小学生11人と保護者、・柏崎の郷土玩具ワークショップ16人、・家読チャレンジ8/1～31 約30人） 【出張おはなし会】絵本ボランティアと職員が幼稚園・保育園等で実施。5回 参加者延べ40人（令和5(2023)年度5回29人） 【絵本・こどもフェスタ2024】 ・人形劇「11ぴきのねこ」145人（令和5(2023)年度110人）・きょうは一日えほんの日延べ53人（令和5(2023)年度2回延べ143人）【その他新規】・親子で楽しむ絵本の朗読劇34人、・絵本の読み聞かせとパントマイム 84人 【子ども司書養成講座】内郷小5人が受講（令和5(2023)年度2校中通小6人、内郷小7人） 【子ども図書館員体験】2回23人（令和5(2023)年度2回17人） 【読書週間ぬりえ展】10/25～11/10 市内28園参加422点作品展示 【はじめての絵本セミナー「えほんライブ」】34組70人（令和5(2023)年度29組59人） 【ブックスタート事業】4か月児集団健診に案内し、希望絵本2冊を郵送又は来館時に手渡した。283人566冊（令和5(2023)年度304人608冊） 【ふれあいブックスタート】ブックスタートのフローアアップとして開催し、保護者に意識付けを行った。12回176人（令和5(2023)年度12回147人） 【絵本の読み聞かせボランティア交流研修会】26人（令和5(2023)年度15人）	○ イベント・講座 計画的に事業を実施し、社会教育環境の充実に寄与した。また、他課や外部団体との連携をしながら開催することができた。 柏崎市子ども読書活動推進計画 各関係機関・団体と連携して、子どもの読書習慣づくりと読書環境の整備のための各種事業を実施し、子どもや保護者等への読書への意識付けと読書活動の推進に寄与することができた。 ブックスタート・ふれあいブックスタート ブックスタート事業の保護者アンケートでは「大変良い」が98%（令和5(2023)年度96%）、絵本の活用の問いでは「絵本をとても活用している」「絵本を活用している」が98%（令和5(2023)年度100%）と引き続き高い評価を得ることができた。また、健診会場での職員による対面説明だけでなく、フローアアップ事業として、図書館において「ふれあいブックスタート」を毎月開催し、乳児が絵本に触れる機会を創出するとともに、保護者の読み聞かせへの意識啓発に寄与することができた。 ● ふれあいブックスタートを始めとした各種イベントへの参加を更に呼び掛け、親子での読み聞かせの大切さや家庭での読書習慣の重要性を発信する必要がある。 イベント・講座の開催時だけの一過性にならないよう、継続的に読書に親しむための働き掛けを考えていく必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
博物館振興事業 [博物館]	1,711	1,310	・春季企画展「刷り物博覧会 一引札に映る人々のくらしー」 4/27～5/26 (入場者4,352人) ・第31回動植物スケッチ・写真展 6/9～6/23 (入場者1,482人) ・夏季企画展「江戸時代の村を伝える」 7/20～8/18 (入場者3,304人) ・秋季企画展「江戸行きと松前行き ー柏崎の縮布商と麻漁網ー」 10/12～11/24 (入場者5,240人) ・冬季収蔵資料展「むかしのくらしと道具 ー子ども時代を支えたモノたちー」 翌1/4～3/9 (入場者2,912人) ・各企画展等では、講演会・ワークショップ等の関連行事を実施した。 ・その他にも、エントランスホール等で各種の展示を実施した。 延べ開催日数 165日間 延べ入場者数17,290人 ※令和5 (2023) 年度 延べ開催日数 155日間 延べ入場者数17,593人	○ 企画展等では、当館収蔵資料の活用に加え、他機関等の協力を得ながら連携し、多様な学習機会の提供や理解を深める取組とすることができた。 なお、冬季収蔵資料展「むかしのくらしと道具」では、柏崎刈羽地域における小学校3年生の学習の場として12校の利用があり、学校教育活動に寄与することができた (令和5 (2023) 年度は11校)。 ● 市民の教育、学術等に寄与する教育施設として、博物館資料を適切に収集、保管し、市民ニーズ等に対応した展示や解説等の学習機会を提供していくことが必要である。	A

事業事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
プラネタリウム管理運営費 [博物館]	7,150	6,754	・定期投影では、星空解説と「恐れたま乱太郎の宇宙大冒険 with コズミックフロンティアNEXT土星めぐりでシャッターチャンスの段」(通年)、「ルネサンスー望遠鏡の新しい時代ー」(12月を除く通年)、「クリスマスファンタジーⅣ」(12月)、「1秒太陽 私たちの母なる星」(4～7月)、「1秒ちよつと前の月 宇宙の果てまで」(8～11月)、「ゆるり星空めぐり 星のいろいろ」(翌1～3月)を投影した。 ・ゴードルデンウィークイベント投影「キッズタイム」(8回353人)、夏季イベント投影「柏崎天文同好会による天文トーク in 柏崎市立博物館プラネタリウム」登壇者：柏崎天文同好会6名(1回56人)、イベント投影「地球の仲間を探そう！ わくわく☆惑星の不思議」講師：新潟工科大学工学部 准教授 秋山永治氏(博士 天文学) (1回50人)、秋季イベント投影「熟睡プラネタリウム」(4回160人)を実施した。 ・「よるの博物館」(未就学児と家族対象のイベント)でプラネタリウムを利用した投影を実施した(2回1613人)。 ・8・11・12月に特別投影を実施した (合計343人)。 ・小・中学校の学習投影にも対応した。 ・教育センター・柏崎天文同好会と連携し、星空観察会を3回(合計22組40人)実施した。 定期投影 団体投影 173回 学習投影 65回 48回 計286回 入場者 6,618人 ※令和5 年度 284回 7,210人	○ 定期投影等では子どもから大人まで楽しめる番組を選定し、天文への興味や理解を深めてもらうことができた。 また、「熟睡プラネタリウム」といったオリジナル企画を季節ごとに合計4件実施することができた。 さらに、学習投影では、小学校(4年生23校23回投影、6年生16校16回投影)、中学校(3年生8校9回投影)が理科の天文学習で利用し、学校数及び投影回数は前年度を上回るなど、学校教育活動に寄与することができた。 全体の入場者数は下回ったが、イベント投影等では前年度を上回るなど、各種の取組により、柏崎の星空を解説し、星空を楽しむ機会を提供することができた。 ● 学習投影や柏崎の今夜の星空解説等を通じた天文学習を継続するとともに、新番組を組み込みながら、県内でも数箇所しかないプラネタリウムを有効に活用する企画を行う必要がある。	A

(2) 家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する

ア 地域づくりへの学習成果の活用
イ 様々な主体との連携による生涯学習の充実

事業事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
市民大学運営事業 [文化・生涯学習課]	1056	785	市民が学ぶ喜び・楽しみから心の豊かさや生きがいを見いだすことを目的に、市内2大学と連携しながら多岐にわたる分野の講座を開催した。 令和6(2024)年度(講座数は種類) 講座…開催13講座(延べ31回) (R5年度 14講座 延べ32回) 延べ人数…718人 (令和5(2023)年度 629人)	○ 市民のニーズに合わせた講座を、市民公募の企画運営委員と共に企画検討し開催することができた。また、日本における第一人者を講師として招へいし、参加者の幅広い学びにつなげることができた。 ● より多くの方々に学習機会を提供するため、若年層向け、高齢期向けなどターゲットを明確にし、開講時期を考慮しながら魅力ある講座を引き続き検討する必要がある。あわせて、周知方法等を工夫する必要がある。	A

3 スポーツを通じた「たくましさ」をはぐくむ

【第五次総合計画・後期基本計画における施策の方針】

市民がそれぞれのライフステージに応じたスポーツに接し、地域づくり・健康づくり・生きがいづくりにつながるよう、福祉、介護、保育、地域、教育などの分野を超えた連携を図ります。

東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に取り組んだホストタウン事業や障がい者スポーツ啓発事業を更に深めていきます。

各種競技団体との連携を強化し、優れた競技者の養成と指導者の確保により、全国や世界で通用する競技者を育てます。一方で、学校の部活動の再編に的確に対応し、競技の普及、競技力の向上や強化に向けて取り組めます。

未就学児童と小学生及び保護者を対象に、スポーツへの関心の向上と競技者育成のきっかけづくりを推進します。

体育施設は、少子高齢化による競技者人口の推移を踏まえ、時代の要請に対応した施設の統合や複合化を検討します。

◆ 主な事業

スポーツ振興課

○ スポーツ事業支援経費

第106回全国高等学校野球選手権大会（以下：甲子園）に柏崎勢として初出場した新潟産業大学附属高等学校野球部を市民が一丸となって応援するためのパブリックビューイングやオリンピック・甲子園報告会を開催し、大勢の市民から参加いただいたことでシビックプライドの醸成につながった。また、市内の保育園に対して、幼児の運動あそび出前教室を初めて実施し、子どもたちにも運動あそびの楽しさを感じてもらい、保育士にも運動あそびの重要性、普段の保育に取り入れられる運動あそびを伝えることができた。

○ 水球のまち推進事業

当市では11年ぶり2回目となる第100回を数える日本選手権水泳競技大会水球競技の記念すべき大会が新潟県立柏崎アクアパークで開催され、市内外から3日間で延べ6,503人の来場者を歓喜に沸かせ、水球のまち柏崎を象徴する大会となった。また、アジア圏を始めとする海外チームの合宿を受け入れたことにより、第1回アジア・パシフィック・ウオーターポロリーグや第1回アジアウィンタースカップに海外から3チームが参戦した。くわえて、第11回目となる全日本ジュニア（U17）水球競技選手権大会など各種大会を開催したこと、国内外において当市の水球の聖地としての知名度が向上し、国際交流にもつながった。さらには、参加型イベント「海で水球」を開催したこと、スポーツによる交流人口の拡大につながった。

(1) スポーツによる地域づくりや生きがいづくりを進める
ア ライフステージに応じたスポーツの推進
イ スポーツによる交流人口の拡大

事業事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
市民スポーツ大会経費 〔スポーツ振興課〕	5,583	5,051	スポーツ推進委員会を中心に地区体育協会や子ども自然王国（綱生態計画研究所）と連携してスポーツ行事を行った。 実施事業 ・スポーツレクリエーションングランプリ①（モルツク）参加者数63人（令和5（2023）年度、参加者数44人） ・スポーツレクリエーションングランプリ②（ボッチャ）参加者数54人（令和5（2023）年度、参加者数58人） ・スポーツレクリエーションングランプリ③（モルツク）参加者数111人（令和5（2023）年度、参加者数44人） ・スポーツレクリエーションングランプリ④（カローリング）参加者数46人（令和5（2023）年度、参加者数39人） ・市民スキニー・スノーボードスクール参加者74人（令和5（2023）年度、参加者45人） ・地区体協対抗ウォーキングイベント、参加地区体協8チーム（令和5（2023）年度、参加地区体協10チーム） ・企業対抗ウォーキング大会、参加19チーム（令和5（2023）年度、参加20チーム）	○ ニュースポーツなどの各種スポーツ行事等の取組を通じて、スポーツを親しむきっかけづくりの場を提供したことで地域での交流を深めることができた。 ● 引き続き市民が気軽にスポーツイベントに参加できるよう、スポーツ推進委員や地区体育協会などの関係者との連携が必要である。	A
学校開放経費 〔スポーツ振興課〕	200	198	市内小・中学校31校の学校体育施設を開放した。令和6（2024）年度の利用登録団体199団体、延べ利用者数147,115人（令和5（2023）年度の利用登録団体192団体、延べ利用者数146,766人）	○ 学校体育施設を有効活用することで、運動する機会・場所を提供し地域スポーツの振興ができた。 ● 市民が運動に親しむ機会を確保するため、学校体育施設の積極的活用を進める必要がある。また、利用方法について申請方法や施設の鍵の管理など今後も検討が必要である。	A
スポーツ推進委員費 〔スポーツ振興課〕	3,847	3,551	69名のスポーツ推進委員が地区体育協会などと連携し、各派遣事業イベントを実施した。また、障がい者、外国人とのスポーツ交流も継続して行った。 実施事業 ・派遣事業イベント19事業、参加者714人（令和5（2023）年度15事業、参加者768人） ・ニュースポーツ&パラスポーツ体験会、参加者251人（令和5（2023）年度、参加者120人） ・外国人とのスポーツ交流会、参加者28人（令和5（2023）年度、参加者13人）	○ 派遣事業やイベントを開催することで、障がい者や外国人も含めてスポーツを楽しんでもらい、スポーツによる地域交流が深まった。 ● 地域でのスポーツ普及を図るとともに、活動を通じて子どもから高齢者までスポーツの楽しさを伝えなければならぬが、少子高齢化や過疎化の問題がある。あわせて、その成り手もないことが課題である。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
市町村生涯スポーツ振興事業 〔スポーツ振興課〕	460	257	学校運動部活動指導者派遣事業で、その指導報酬などを負担した。1回当たりの報酬を3,000円として年間30回を上限に5人分を予算措置し、4校に4人の指導者を派遣した（令和5（2023）年度、3校4人派遣）。	○ 中学生に対して競技の説明・練習方法等を的確に、かつ、丁寧に指導できる指導者を派遣し、専門的な指導ができない教職員の負担軽減につながった。 ● 学校運動部活動指導者派遣事業（令和6（2024）年度4人）と部活動指導者のバランスを取りながら、中学校部活動の地域展開について関係者と連携し、対応していく。	A

スポーツ事業支援経費 〔スポーツ振興課〕	33,133	30,714	（一財）柏崎市スポーツ協会や地区体育協会、柏崎潮風マラソン実行委員会に補助金等を交付し、市民スポーツの普及や振興を図った。 実施事業 ・市民登山（八石山）、参加者11人（令和5（2023）年度、市民登山（八石山）、31人） ・市民ラージボール卓球大会、参加者55人（令和5（2023）年度、参加者63人） ・市民バスケットボール大会、参加者101人（令和5（2023）年度、参加者90人） ・スポーツ能力測定業務、参加者133人（令和5（2023）年度、参加者118人） ・幼児の運動あそび出前教室（7保育園）参加者194人（令和5（2023）年度、事業なし） ・柏崎潮風マラソン参加者1,668人（出走者1,612人、わんぱくの部44人、ティラノ12匹）（令和5（2023）年度、参加者1,503人（出走者1,484人、わんぱくの部19人）） ・オリンピック・甲子園報告会「柏崎からの挑戦」、来場者2日間合わせて350人（令和5（2023）年度、事業なし） ・第106回全国高等学校野球選手権大会パブリックビューイング、来場者2日間合わせて約1,450人（令和5（2023）年度、事業なし） ・かしわざき健康サポーターカンパニー登録事業者数30事業所（令和5（2023）年度、26事業所）	○ 各事業を実施することで、競技スポーツの選手強化や生涯スポーツ振興による健康づくりなどに結び付けることができた。 第106回全国高等学校野球選手権大会（以下：甲子園）に柏崎勢として初出場した新潟産業大学附属高等学校野球部を応援するためのパブリックビューイングやオリンピック・甲子園報告会を開催したことで、シビックプライドの醸成につながった。また、アレゴールデンエイジ（3～8歳）※及びゴールデンエイジ（9～12歳）※向けの運動あそびや運動能力測定会等の各種体験事業を実施することで、子どもの運動機会の増加につながった。 ● 引き続き市民が気軽にスポーツイベントに参加できるよう、スポーツ協会、地区体育協会など関係者との連携が必要である。また、子どもたちの健やかな成長を推進するため、幼児期における運動あそびの重要性を周知し、普及していく必要がある。	S
-------------------------	--------	--------	---	---	---

(2) 全国や世界に通用する競技者を育てる
ア 競技団体との連携の強化と指導者の養成
イ 競技力の向上に向けた取組の推進
ウ 施設の整備と改修

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
選手強化事業 〔スポーツ振興課〕	4,950	4,950	県の強化指定を受けている3競技（水球、ハンドボール、陸上）団体に対し、地域ジュニア競技ス ポーツクラブ育成事業補助金を交付し、小学生・中 学生・高校生の選手強化を図った。 水 球 2,970,000円 ハンドボール 990,000円 陸 上 990,000円	○ 新潟県の強化指定を受けている3競技（水球、ハン ドボール、陸上）への支援を継続したことで、選手 強化につながった。 ● 水球 第92回日本高等学校選手権水球競技大会 産附・柏崎・翔洋・長岡_出場、第47回全国JOCジュ ニアオリンピックカップ夏季水球競技大会 プルボ ンウオーターポロクラブ柏崎（中学生女子）_出 場、第17回全日本ユース水球競技選手権大会 プル ボンウオーターポロクラブ柏崎（U16女子）_出場、 第11回全日本ジュニア水球競技選手権大会 プルボ ンウオーターポロクラブ柏崎（U17男子、U17女子） _出場、第47回全国JOC春季水球競技大会 プルボン ウオーターポロクラブ柏崎（小学生、中学生女子） _出場 ・ハンドボール 令和6年度 全国高等学校総合体 育大会 高松宮記念杯 第75回 全日本高等学校ハ ンドボール選手権大会 新潟県立柏崎工業高等学校 _出場 ● 県の強化指定を受けている3競技の活動支援、選手 強化を継続し、ジュニア世代の競技力の維持・向上 を図る必要がある。	A
国際大会等出場激励事業 〔スポーツ振興課〕	600	440	スポーツで国際大会に出場する選手を対象に、オリ ンピック出場に対し一人につき10万円、国際大会出 場に対し一人につき2万円の激励金を贈り、スポー ツ振興を図った。 ・令和6（2024）年度は、オリンピック出場に対し て水球3選手及びセーリング1選手、国際大会出場に 対して水球2選手に激励金を贈った（令和5（2023） 年度、国際大会出場に対して水球3選手）。	○ 国際大会に出場した水球の3選手、セーリング1選手 に激励金を贈ったことで、選手の激励とスポーツ振 興につながった。 ● 競技スポーツの振興とスポーツ活動を激励するた め、引き続き事業の継続が必要である。	A
スポーツ合宿誘致事業 〔スポーツ振興課〕	175	175	交流の促進と経済効果の拡大を図るため、スポーツ 合宿誘致PR活動に対する負担金を拠出した。 令和6（2024）年度延べ31団体、延べ人数7,669人 （令和5（2023）年度延べ36団体、延べ人数9,224 人）	○ 第100回日本選手権水球競技大会水球競技が県立柏 崎アクアパークで開催されたため、その期間中、施 設の利用ができなかったことや、昨年度実施したセ ルビア共和国及びモンテネグロによる事前合宿が行 われなかったことから、利用団体の減少したもの の、県外へのスポーツ合宿誘致のPR活動を推進した ことで、スポーツによる交流及び経済効果の拡大に つながった。 ● スポーツ施設の稼働率が低い平日の時間帯における 利活用、スポーツ合宿のターゲットの拡大（競技ス ポーツ以外の障がい・生涯スポーツ・音楽）を検討 する必要がある。	A

事業事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
62 体育施設管理運営経費 〔スポーツ振興課〕	395,738	393,288	体育施設の指定管理に関する基本協定に基づく業務（利用の許可に関する業務、施設の運営に関する業務、維持管理に関する業務、利用料金の徴収に関する業務ほか）を指定管理者が適切に行った。また、担当課でも施設を適切に維持管理していくために佐藤池野球場や総合体育館の修繕を行った。 ・年間利用者数15施設分（518,246人、前年度より103.8%増 令和5（2023）年度、499,474人）	○ 利用者が安全安心に施設を利用できるように運営管理をした。佐藤池野球場では1階のトイレ修繕を実施し、総合体育館ではエントランスホールの照明修繕を実施したことで、施設の適切な維持管理ができた。 ● 老朽化が進む体育施設であるが、計画的な改修や適時適切な修繕など適切な施設管理を行い、快適な利用環境を維持する必要がある。	A
63 陸上競技場整備事業 〔スポーツ振興課〕	68,700	68,697	陸上競技場を適切に維持管理するため、スタンドの耐震改修を実施した。	○ 令和5（2023）年度から繰り返ししていたスタンドの耐震改修工事を実施することによって、適切な維持管理が図られ、施設の安全性の確保や利用者の利便性向上につながった。 ● スタンドの耐震化は終了したが、外壁やスタンド席などの老朽化が進んでおり、あわせて、2種公認の更新に伴う施設改修を行う必要がある。	A
64 武道館整備事業 〔スポーツ振興課〕	29,700	29,643	武道館を適切に維持管理するため、屋外非常階段改修工事を実施した。	○ 屋外非常階段を改修工事することによって、適切な維持管理が図られ、施設の安全性や利用者の利便性の向上につながった。 ● 屋上防水の老朽化が進んでいる。引き続き、安全、快適な施設を利用者に提供するため、適切な維持管理を行う必要がある。	A
65 駅前公園テニスコート整備事業 〔スポーツ振興課〕	80,000	22,400	駅前公園テニスコートを適切に維持管理するため、屋外照明LED入替工事を実施した。	○ 当初予定していた以上に時間がかかったため、工期を延長し、令和7（2025）年度へ繰り越した。 ● 施設の利用が再開できるよう速やかに工事を行う必要がある。	-
66 体育施設備品購入事業 〔スポーツ振興課〕	22,772	22,373	総合体育館を適切に維持管理するため、総合体育館トレーニング室の無酸素系トレーニング機器及び管理システムの入替えを実施した。	○ 体育施設備品を入替購入することによって、適切な維持管理が図られ、施設の安全性や利用者の利便性の向上につながった。 ● トレーニング機器に限らず、総合体育館のバスケットゴールや陸上競技場の写真判定装置など体育施設の備品の老朽化が進んでいる。引き続き、安全、快適な施設を利用者に提供するため、適切な維持管理を行う必要がある。	A

事業事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
総合体育館災害復旧事業 〔スポーツ振興課〕	2,631	2,631	総合体育館を適切に維持管理するため、令和6年能登半島地震により破損した総合体育館の内部壁・天井の修繕を実施した。	○ 令和5 (2023) 年度から繰り越していた内部壁・天井の修繕を実施することによって、適切な維持管理が図られ、施設の安全性の確保や利用者の利便性向上につながった。 ● 利用者が、安全安心に利用できるよう速やかな災害復旧を行う必要がある。	A
67					
駅前公園テニスコート災害復旧事業 〔スポーツ振興課〕	170,500	57,935	駅前公園テニスコートを適切に維持管理するため、令和6年能登半島地震により破損したテニスコートの改修測量設計及び改修工事を実施した。	○ 当初予定していた以上に改修測量設計に時間を要したため、工期を延長し、令和7 (2025) 年度へ繰り越した。 ● 施設の利用が再開できるよう速やかに工事を行う必要がある。	-
68					
水球のまち柏崎推進事業 〔水球のまち推進室〕	12,336	12,258	柏崎水球事業実行委員会に負担金を支出し、各種大会の開催・合宿誘致事業、水球を支え育むまちづくり事業を行い、水球によるまちづくりを推進した。また、(一社)ウォーターボロクラブ柏崎に対して社会人水球クラブ強化補助金を交付し、活動を支援することによって選手強化につなげた。 令和6 (2024) 年度実績 ・第1回アジア・パシフィック・ウォーターボロリーグ、5チーム参加 (うち海外2チーム) (令和5 (2023) 年度なし) ・第7回えちゴんカップ、参加チーム13チーム (令和5 (2023) 年度、13チーム) ・第1回アジアウインターカップ、5チーム参加 (うち海外1チーム) (令和5 (2023) 年度なし) ・第8回新潟レディースカップ、参加チーム15チーム (令和5 (2023) 年度、11チーム) ・アジア圏を始めとする海外水球チームの合宿誘致、シンガポール男子代表チームほか5チーム、86人 (令和5 (2023) 年度、フィリピン男子代表チーム他7チーム、合計154人) ・全日本ジュニア (U17) 水球競技選手権大会、男女28チーム、選手330人、観覧者4,696人 (令和5 (2023) 年度、男女28チーム、選手332人、観覧者3,812人) ・水球男子日本代表チームがパリ2024オリンピック事前合宿を実施し、ブルボンKZとのシヤッフルチームで公開試合を実施 (観客600人) ・第100回日本選手権水泳競技大会水球競技、来場者6,503人 (令和5 (2023) 年度なし) ・海で水球では、参加型イベントとして県内外5チーム参加 (令和5 (2023) 年度、8チーム参加) ・水球日本代表として国際公式大会に出場した選手3人 (令和5 (2023) 年度、3人)	○ アジア圏を始めとする海外チームの合宿を受け入れるとともに、第1回アジア・パシフィック・ウォーターボロリーグや第1回アジアウインターカップ、第100回日本選手権水泳競技大会水球競技、全日本ジュニア (U17) 水球競技選手権大会など各種大会を開催したことで、国内外において水球の聖地としての本市の知名度が向上し、国際交流にもつながった。また、参加型イベント「海で水球」を開催したことで、スポーツによる交流人口の拡大につながった。 ● 今後更なるアジア圏の水球チームのつながりを強めていくことが課題である。「水球のまち柏崎」の世界的な知名度の向上を図る。あわせて、水球を通じた国際交流を推進していく必要がある。	A
69					

4 歴史や文化の息づく「柏崎らしさ」をつくる

【第五次総合計画・後期基本計画における施策の方針】
GIGAスクール構想等を踏まえて、WEBミュージアムの充実、活用を進めます。指定文化財等基本調査を実施し、その成果をWEBミュージアムにより発信します。

本市の産業文化を学べる機会を提供し、保存と活用を進めます。
「柏崎市景観計画」に基づき、景観の向上に努めます。
良質な芸術作品の鑑賞機会や活動の場を引き続き市民に提供するとともに、新たなイベント等の開催を企画するなどして、市民の文化活動に対する興味や関心を深め、主体的に文化活動を行う人材の育成につながるよう支援します。
教育機関や芸術団体との連携により、広域的に文化交流や文化活動を推進します。また、市民の文化交流や文化活動を支援し、周辺エリアのにぎわい創出につなげるように取り組みます。

◆ 主な事業	
文化・生涯学習課	
○ 文化会館管理運営事業	文化会館アルフォーレの管理に関する基本協定に基づく業務（利用の許可に関する業務、施設設置目的に掲げる事業の企画及び実施に関する業務、施設の維持管理に関する業務ほか）を指定管理者が適切に行った。年間利用者数135,324人（前年度比 16,740人増）
○ 市美術展覧会事業	市民の日頃の創作活動の成果を発表する機会として、市美術展覧会を10月10日（木）から10月14日（月・祝）までソフィアセンターで開催した。出品者数208人（前年度比±0人）、作品展示数285点（前年度比2点減）、入場者数延べ2,188人（前年度来場者数2,075人）
○ 文化振興事業	見る人全てが一早く春を感じる企画展として、柏崎の花 -Spring Collection 2025-を2月7日（金）から2月11日（火・祝）までソフィアセンターで開催した。 花に関する絵画などの美術作品や美術品、生け花や雪割草など約150点を展示した。 来場者数 延べ2,628人（前年度来場者数3,123人）
博物館	
○ 綾子舞後継者育成事業	人口減少により伝統芸能の後継者不足が全国的な問題となっている中、伝承者養成講座と伝承学習の2本柱で後継者育成を継続している。その中で、伝承学習においては、新道小学校及び南中学校の児童・生徒を対象とした課外クラブ等とすることで参加者の確保に努め、令和6（2024）年度は、66名の参加を得ることができた。
○ WEBミュージアム推進事業	地域の文化、風土を学習できるよう、子ども向けWEBミュージアムを運用した。また、大人向けWEBミュージアムでは、新たに3件の指定文化財等をデジタル高精細画像で撮影して公開した。 WEBミュージアムは、小学校の社会科副読本に対応するなど、教育現場での利用促進が図られた。また、資料等のデジタル化を推進することができた。
○ 文化財保護管理費	文化財の保存と活用を図る取組の一つとして、指定文化財の歴史的・文化的価値を再確認等するための指定文化財等基本調査事業を継続し、令和6（2024）年度は合計3件の調査を行った。文化財の現状を記録するとともに、専門家による所有者への助言等を行い、保存意識を高めてもらうことができた。そのほか、史跡等に対する指定文化財周辺整備の実施、国指定文化財（建造物）の防災設備保守点検等に対する補助金交付等を行った。

(1) 歴史・文化を保全・活用し、継承する

- ア 伝統芸能の継承
- イ 歴史・文化資産の保存と活用
- ウ 産業文化や生活文化の保存と活用
- エ 景観まちづくりの推進

事業事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
綾子舞後継者育成事業 [博物館]	1,830	1,519	「綾子舞」の後継者を育成するため、伝承学習及び伝承者養成講座を実施した。 「綾子舞伝承学習」は、伝承地を校区とする南中学校と新道小学校を対象に実施した。 期間 5/9～11/1、延べ10回開催（リハーサル、発表会含む。） 参加児童生徒数 66人（令和5（2023）年度74人） 「綾子舞伝承者養成講座」は、二つの座元（下野、高原田）において実施した。 期間 5/14～10/24、延べ36回開催 延べ参加者数 917人（令和5（2023）年度930人）	○ 綾子舞保存振興会や学校などの関係団体と連携を図り、郷土の伝統芸能を継承するための後継者を育成することができた。 ● 人口減少などの影響により、新道小学校及び南中学校の児童・生徒を対象にした綾子舞伝承学習への参加者や指導者の継続的な確保が課題である。 後継者育成を途絶えさせることなく確実に継続していくことが必要である。	A
文化財保護管理費 [博物館]	3,125	2,588	文化財の保存と活用を図る取組の一つとして、指定文化財の歴史的・文化的価値を再確認等するための指定文化財等基本調査事業を行った。そのほか、史跡等に対する指定文化財周辺整備の実施、国指定文化財（建造物）の防災設備保守点検等に対する補助金交付等を行った。 指定文化財等基本調査事業実施件数 合計3件 民俗文化財1件、天然記念物2件	○ 指定文化財等基本調査事業では、文化財の現状を記録するとともに、専門家による所有者への助言等を行い、保存意識を高めてもらうことができた。 ● 指定文化財の調査は長期にわたることから、計画的な事業実施が必要となる。また、指定文化財には多様な分野があり、調査担当者の選任や調査方法の検討が必要である。 少子高齢化や過疎化等による文化資産継承の担い手不足に加え、生活様式の変容等があいまって、地域の民俗文化財等が後世に引き継がれにくくなっている。	A
柏崎市内遺跡発掘調査事業 [博物館]	24,209	21,418	県営ほ場整備事業、市道改良工事、民間開発等に伴い、事前の試掘・確認調査等を行った（試掘・確認調査6件、工事立会い12件）。あわせて、史跡指定に向けた西岩野遺跡の確認調査を開始した。 また、令和5（2023）年度に実施した試掘・確認調査などの報告書1冊（51ページ、300冊）を刊行した（報告書は令和7（2025）年に関係機関約290か所に配布予定）。	○ 試掘・確認調査の実施及び報告書を刊行して、埋蔵文化財保護をすることができた。 ● 県営ほ場整備事業対応のための調査経費が増加している。 調査の継続により西岩野遺跡の価値を明らかにし、史跡指定に向けて取り組む必要がある。 年度当初に予定した調査のほかに緊急な対応を求められる場合がある。 開発事業の計画変更によって、調査の内容も異なってくるため、本事業の計画の見直しが必要である。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
都市整備関連遺跡調査事業 [博物館]	1, 743	1, 556	平成5 (1993) 年に発掘調査を実施した藤橋東遺跡群の発掘調査報告書を刊行した。	○ 藤橋東遺跡群発掘調査報告書を刊行し、埋蔵文化財保護をすることができた。 ● 発掘調査報告書を計画的に刊行し、調査成果を活用することにより、埋蔵文化財の理解を深めていくことが必要である。	A
県ほ場整備関連遺跡調査事業 [博物館]	33, 121	31, 668	霜月田遺跡(大字矢田地内)を記録保存するための発掘調査を行った。	○ 発掘調査報告書を刊行するための作業が進捗し、埋蔵文化財保護を進めることができた。 ● 令和7 (2025) 年に発掘調査報告書を刊行し、発掘調査を完了させる予定である。 調査成果を市民へ公開し、活用する必要がある。	A
県道関連遺跡調査事業 [博物館]	1, 647	1, 186	令和2 (2020) 年から令和4 (2022) 年まで発掘調査を実施した西岩野遺跡(大字山本地内及び大字長崎地内)の整理作業を行い、発掘調査報告書を刊行した。	○ 西岩野遺跡発掘調査報告書を刊行し、埋蔵文化財保護をすることができた。 ● 調査成果を市民へ公開し、活用する必要がある。	A
WEBミュージアム推進事業 [博物館]	4, 189	4, 068	地域の文化、風土を学習できるよう、子ども向けWEBミュージアムを運用した。また、大人向けWEBミュージアムでは、指定文化財等の資料を新たにデジタル高精細画像で撮影して公開した。 ・デジタル高精細画像撮影件数 3件 (うち指定文化財2件) ・WEBミュージアムアクセス件数 168, 008件 <内訳> わたしたちの柏崎・特集ページ 81, 279件 柏崎の偉人と文化財 15, 519件 高精細デジタルアーカイブ 71, 210件	○ 小学校の社会科副読本に対応するなど、教育現場での利用促進が図られた。また、資料等のデジタル化を推進することができた。 ● 撮影費が高額であることから、単年度の新規更新件数は限定的であり、計画的に継続することが必要である。また、GIGAスクール事業により児童生徒のインターネット利用環境が充実したことから、学校でのWEBミュージアム活用促進が求められている。	A

73

74

75

76

(2) 市民の主体的な文化活動を支援する

ア 市民の文化活動への支援

イ 多様な文化交流の推進

事業事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
文化会館管理運営費 [文化・生涯学習課]	206,132	200,395	文化会館アルフォーレの管理に関する基本協定に基づく業務（利用の許可に関する業務、施設設置目的に掲げる事業の企画及び実施に関する業務、施設の維持管理に関する業務ほか）を指定管理者が適切に行った。 ・年間利用者数 135,324人（R5年度 118,584人） ・アルフォーレ自主事業 来場者満足度97%（R5年度98%）	○ 12件の鑑賞事業、1件の普及事業、4件の参加型文化イベントを実施し、様々なジャンルの芸術鑑賞の機会を提供することができた。また、駅前エリアのにぎわい創出を目的に3件の市民文化活動支援事業、8件のにぎわい事業を実施し、普段劇場に足を運ばない市民の来館のきっかけを作った。 ● 民間文化団体の減少が続くことから、市民の文化活動を後押しする企画の立案や施設利用を促進する環境整備を行う必要がある。	A
産業文化会館管理運営費 [文化・生涯学習課]	69,399	69,395	産業文化会館の管理に関する基本協定に基づく業務（利用の許可に関する業務、施設設置目的に掲げる事業の企画及び実施に関する業務、施設の維持管理に関する業務ほか）を指定管理者が適切に行った。 ・年間利用者数 56,547人（R5年度 56,979人）	○ 2回目の開催となった「さんぶんフリーマーケット」では、フリーマーケットのほかに1階ロビーでパンやカフェ井を販売し、子ども向けの輪投げなども行い、幅広い年齢層に向けて新たな施設利用方法の周知を図ることができた。 ● 建設後40年以上が経過しており、建物本体及び音響設備の老朽化が顕著であることから、施設の利用ニーズを踏まえた上で、必要な修繕を行う必要がある。	A
市美術展覧会費 [文化・生涯学習課]	2,196	1,939	・市民の日頃の創作活動の成果を発表する機会として、市美術展覧会を10月10日（木）から10月14日（月・祝）までソフィアセンターで開催した。 出品者数 208人（R5年度 208人） 作品展示数 285点（R5年度 287点） 入場者数 延べ2,188人（R5年度入場者数2,075人） ・10月16日（水）から、令和6年度の入賞作品をアーカイブ展示している。	○ 市内の高校生や大学生向けのポスターを別途作成して出品を呼び掛け、日本画、洋画及び写真の各部門の新規出品につなげることができた。 ● 芸術分野における高齢化が顕著であり、今後市展への出品数の先細りが見込まれる。若い世代の興味、関心を喚起する必要があるため、引き続き高校生や大学生に呼び掛けて出品を促す必要がある。	A
文化振興支援事業 [文化・生涯学習課]	1,620	1,226	・文化会館アルフォーレ劇場広場を会場とした野外おんがく堂2024を開催した。 ・入場者数2,456人 出演18団体（R5年度 入場者数2,398人 出演17団体）	○ 「野外おんがく堂」開催により、アマチュア演奏家の発表の場の提供を行い、また、地域のにぎわいの創出につなげることができた。 ● 市民一人一人が文化芸術に親しむことのできる魅力あるまちづくりを目指す必要がある。今後も、文化交流の発展及び市民の文化への関心や理解が深まる活動に対する支援を行う必要がある。	A
文化振興事業 [文化・生涯学習課]	25,000	24,093	・見る人全てが一足早く春を感じる企画展として、柏崎の花 -Spring Collection 2025-を2月7日（金）から2月11日（火・祝）までソフィアセンターで開催した。 ・花に関する絵画などの美術作品や美術品、生け花や雪割草など約150点を展示した。 来場者数 延べ2,628人（R5年度 来場者数3,123人）	○ 日本画及び洋画のライブペイント等の企画を充実させ、来場者の文化芸術への興味関心を高めることができた。アンケートの結果も98%の方から満足評価を得ることができた。 ● 文化芸術人口の増加を図るため、引き続き五感で体験できる様々なコンテンツを企画する必要がある。	A

5 その他教育関係事務事業

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
人権・同和教育事業 [文化・生涯学習課]	9	3	市民プラザにおいて、12月の人権週間に合わせ、パネル展を実施し、人権に関する啓発活動を行った。 (人権週間の周知、同和問題についてなどのパネル展示) また、市民プラザをサテライト会場とし、人権教育指導者研修会を実施するとともに、研修会終了後の講演会をオンラインで実施し、8名の参加があった。 あわせて、人権や同和問題に関する研修会に参加し、知識を深めることができた。	○ パネル展では、ポスター等を用いて見やすい展示を心掛け、人権への関心向上を図った。 また、社会教育委員や民生委員などの参加を得ることができた。 ● 学校教育課、人権啓発・男女共同参画室と連携し、同和問題を始め、インターネットによる人権侵害などの人権問題についての啓発活動を継続して実施する必要がある。	A

O廃止した事業

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
なぎさ体験塾 [文化・生涯学習課]	0	0	東村山市・東久留米市・柏崎市の小学5・6年生の子どもたちが、柏崎の海を拠点に2泊3日の交流体験を行うもの。子どもの安全を十分に確保した上での開催が難しいため、3市で協議の上、令和6年度以降、「なぎさ体験塾」を実施しないこととなった。	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	

－ － － 用 語 解 説 － － －

レファレンス	図書館利用者の学習・研究・調査等のために必要な図書・資料・情報の検索や提供、照会への回答など、図書館職員が行う参考業務全般であり、図書館のサービス事業の重要な要素の一つ
I C T	インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジーの略。情報通信技術。従来、用いられてきた「I T」とほぼ同様の意味で用いられるもので、国際的にはI C Tの方が定着している。
デジタル教科書	デジタル機器や情報端末向けの教材のうち、既存の教科書の内容を閲覧するためのソフトウェア。閲覧のほか、編集、移動、追加、削除などの基本機能を備えている。
G I G A スクール構想	1人1台端末と通信ネットワークを一体的に整備することで、これまでの教育とI C Tのベストミックスを図り、子どもたちの学習活動（一斉学習、個別学習、協働学習）を一層充実させるための国の構想。G I G Aとは、Global and Innovation Gateway for Allの略
通次繰越	継続費の場合に、その年度ごとの予算について、その年度内に支出を終了することができない経費を翌年度以降に繰り越して使用することができるものをいう。
繰越明許	その年度内に支出を終了することができない経費について、特別に翌年度1年間に限り繰り越して使用することができるものをいう。
プレゴールデンエイジ	神経系の発達が著しい時期（3歳～8歳）をいい、脳を始めとした神経回路の発達が急速に進む大切な時期とされる。運動能力の基礎は、この年代に形成されると言われている。
ゴールデンエイジ	神経系の発達がほぼ完成し、動きの巧みさを身に付けるのに最も適している時期（9歳～12歳）をいう。

〔参考〕

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号）

（事務の委任等）

第二十五条 教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる事務は、教育長に委任することができない。

- 一 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。
- 二 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。
- 三 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
- 四 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。
- 五 次条の規定による点検及び評価に関すること。

六 第二十七条及び第二十九条に規定する意見の申出に関すること。

3 教育長は、教育委員会規則で定めるところにより、第一項の規定により委任された事務又は臨時に代理した事務の管理及び執行の状況を教育委員会に報告しなければならない。

4 教育長は、第一項の規定により委任された事務その他その権限に属する事務の一部を事務局の職員若しくは教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員（以下この項及び次条第一項において「事務局職員等」という。）に委任し、又は事務局職員等をして臨時に代理させることができる。

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。